



終わりへのキリスト教徒の競争

(王位継承資格)

ジョン・ダニエル

ですから、あなたはイエス・キリストの良い兵士として、苦難に耐えなさい。戦う者はこの世のことに煩わされてはなりません。兵士として選ばれた方を喜ばせるためです。また、もし人が制覇を目指して努力するとしても、法に従って努力しなければ、栄冠を得ることはできません。農夫は、まず働き、その実りにあずかるべきです（テモテへの手紙二 2:3-6）。

著作権 © ジョン・ダニエル兄弟、
私書箱537
サテライトタウン、
ラゴス。

All rights reserved. 本書のいかなる部分も、著者の書面による許可なく、一部または全部を複製したり、複写、電子的、録音、その他の方法により、いかなる形式または手段によっても送信したりすることはできません。

すべての聖書の引用は欽定版ジェームズ王欽定訳聖書からのものです。

献身

この本を、私の愛する妻、メアリー・ブレッシングス・ダニエルに捧げます。彼女は、私の熱心な訓練の後に神が私に与えてくださった最初の女性弟子です。また、ティモシー・ジョン（ジュニア）、ベンジャミン・サミュエル、そしてデイビッド・ジョセフという、神から与えられた従順な子供たちにも感謝します。彼らは弟子としての期間を過ごし、両親と共に豊かになり、また謙虚になりながらも、神の御業を忍耐強く理解してくれました。また、神が私に託してくださったこの助けと和解の奉仕における弟子たちについても感謝の時間を捧げます。

最後に、弟子としての人生を生きるために大胆かつ勇敢な一歩を踏み出した世界中の主の弟子たちに、この本を捧げます。初期の使徒たちを支えた神の恵み、力、そして憐れみが、この終わりの時に私たちすべてを支えてくれますように。アーメン。

導入

神の靈感により、私は世界中のキリスト教世界に、真のキリスト教徒、すなわち私たちの主であり救い主イエス・キリストの弟子としての感動的な経験、教え、そして生き方を紹介します。それは、西暦66年から70年の間にローマ軍がエルサレムを攻撃した際に初期キリスト教徒を襲った背教以来、長らく秘匿されてきたものです。今日、いわゆるキリスト教徒の世界を牛耳っている神学者や哲学者などは、この経験を教えることは出来ません。なぜなら、主は、弟子志願者たちと分かち合える人々の肉体を通して、偉大な証しとしてこの経験を伝えなければならないからです。神学者や哲学者は聖霊の導きに従って歩んでいないため、弟子の生き方について何も知りません。したがって、この本では、主の御霊が初期の弟子たちに何をし、この終わりの時代にもまだ何をしておられるかを、世界中の弟子たちに伝えるようにと、私は主から指示を受けました。そうすれば、弟子として神の呼びかけに応じるために一歩踏み出す人は、自分のベルトを締めなければならないでしょう。

今すぐこの本を読んで、キリスト教徒の混乱の中で、誰をキリスト教徒または弟子とみなせるか、自分で確かめてください。

ジョン・ダニエル牧師

<u>コンテンツ</u>	<u>ページ</u>
第1章 - 比較	6~12歳
宗教と	
キリスト教	
第2章 - では、クリスチャンとは誰でしょうか?	13~24歳
第3章 イエスの真の弟子となるための条件	25~36
第4章 イエスの真の弟子の資質	37-48
第5章 真の弟子とは	49-58
キリストのために諦めなければならない	
第6章 真実への障害	59-70
弟子としての生き方	
第7章 - Aの反応	71-82
真の弟子	
結婚	
第8章 資格	83-101
王位	
第9章 真の102-116の報酬	
キリスト教徒としての競争の終わりに臨む	
弟子。	

第1章

宗教との比較

キリスト教

「宗教」と「キリスト教」という二つの言葉は、キリスト教徒だけでなく、世界中で多くの論争を巻き起こしてきました。世間は、あなたの宗教を通してのみ、神との関係について何も知りません。そして実のところ、彼らの言葉は部分的には正しいのです。なぜなら、キリスト教は世間から宗教と呼ばれているからです。しかし、宗教的であるからといって、決してクリスチャンになれるわけではありません。

宗教は、神について全く、あるいはほとんど知らない多くの信者と、不信者によって実践されています。しかし、不信者はキリスト教を実践することはできず、これからも決してできないでしょう。なぜでしょうか？なぜなら、キリスト教は主イエス・キリストと神の言葉を通してのみ実践できるからです。イエスを受け入れない者は、神の言葉とキリスト教とは何の関係もありません。

しかし、悪人（罪人）に対して神はこう言われる。「わたしの掟（律法または言葉）を宣言し、わたしの契約（旧約と新約聖書）を口にするのは、あなたに何のためなのか。あなたは教えを憎み、わたしの言葉を捨て去る。あなたは盗人を見ると、それに同調し、姦淫する者たちと交わった。あなたは悪に口を出し、

舌は欺瞞を企てる。お前は座って兄弟を非難し、自分の母の子を中傷する。お前はこれらのことをしたが、私は黙っていた。お前は私を全くお前と同じ者だと思っていたが、私はお前を戒め、お前の目の前に整理する。神を忘れる者たちよ、今、このことをよく考えなさい。そうしないと、私はお前たちを引き裂き、救う者がいなくなるだろうから。（詩篇 50:16-22）

宗教は個人だけで実践できるものではなく、共通の信念を持ち、そのメンバーが従うべき集団と共に歩まなければなりません。キリスト教は、神の言葉と聖霊の導きによって主イエスの教えに従いながら、一人でも実践できるものです。世の人々は宗教を実践する方法は様々だと信じていますが、キリスト教はただ一つの方法、すなわち父（神）に至る唯一の道であるイエス・キリストを通して実践されるのです。

イエスは彼に言った、「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできない。」（ヨハネ14:6）

イエスは父なる神への唯一の道であり、唯一の真理であり、唯一の命です。宗教は、この啓示を教えたり示したりすることはできません。キリスト教だけがそれを可能にします。宗教は外側から働きかけ、私たちの外的な性質に執着します。

人間が定めた規則を私たちが守り、それが私たちの自己正義を引き出している一方で、キリスト教は私たちの人生を内側から変えます。なぜなら、私たちの人生を内側から新しくする主体は、私たちとは何の関係もない聖霊だからです。

神は私たちの外見ではなく、心の奥底まで見て、まず心の中にあるものによって判断されます。

そこでイエスは彼らに言われた、「あなたがたも、このようにわからないのか。すべて外から人の中にはいるものは、人を汚すことができないことが、わからないのか。それは心の中にはいるのではなく、腹の中に入り、そして出て行って、すべての食物をきよめるからである。」イエスは言われた。「人から出るものが、人を汚す。内側から、すなわち人の心から、悪い思い、姦淫、不品行、殺人、盗み、貪欲、悪、欺き、好色、瞋恚、冒瀆、高慢、愚かさが生じるからである。これらの悪いものはみな内側から出て、人を汚すのである。」(マルコ7:18-23)

そして、聖霊は心を清め、神に従うことができるように新たにする意図を持って、心にあるすべてのものを裁くので、キリスト教は聖霊なしには価値がありません。キリスト教は義を達成する唯一の方法として聖霊に依存していますが、宗教は人間の自助努力に依存しています。では、宗教とは何でしょうか？オックスフォード辞書によると、宗教とは、宇宙の創造主であり支配者である超自然的な支配力の存在を信じることです。その支配力は、肉体の死後も存在し続ける霊的な性質を人間に与えました。また、人が自分自身が行う義務があると考え何かを意味します。上記の定義から、悪魔とその悪霊を含む地球上の人間の90%が、

宇宙の創造主であり支配者（神）の存在。

あなたは神は唯一であると信じている。それは結構なことだ。悪魔も信じて震えている。（ヤコブの手紙 2:19）

ごく少数の無神論者（神は存在しないと信じる人々）と悪魔を除き、人類は唯一の神を信じているため、宗教を実践する必要が生じます。なぜでしょうか？それは、宗教を実践しなければ神を信じることはできない、そして神を信じなければ宗教を実践することはできないと、世間が信じているからです。異教徒はどうかと言う人もいるかもしれませんが。答えは、異教徒は神を信じ、宗教を実践しており、彼らの宗教は異教であるということです。彼らが特定の宗派や公認の宗教グループに属していないからといって、彼らが無神論者になるわけではありません。

無神論は異教とは明らかに異なります。なぜなら、彼らは神と呼ばれる至高の存在を信じていないからです。異教徒が木、金、銀、青銅などで作り、崇拝する偶像は、彼らの信仰に基づく神とみなされます。たとえ彼らがそれを無知に行っているとしても、それは彼らが至高の存在を信じていることを示す証拠となります。そして悪魔はすぐに悪霊を送り込み、神に変装させ、それらの手段を通して彼らに語りかけ、守るべき律法を与えます。キリスト教を実践できる唯一の方法は、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストを通してのみです。イエス・キリストを通して以外の方法でキリスト教を実践できると信じる人は、欺瞞であり、

関係する個人またはグループが宗教を実践していること。

神の存在は信じているものの、神が受け入れている唯一の神との関わり方を信じていない宗教グループには、イスラム教、仏教、ユダヤ教、ヒンズー教、そして聖杯のメッセージ、薔薇十字団、エッカカンカールなど一部のオカルトの巨匠によって設立された他の宗派があります。これらと他の何千もの宗教グループは、いわゆるキリスト教世界の中にさえ、宗教を実践していますが、真のキリスト教徒のようにイエス・キリストの教義を信じも実践もしていません。

この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下にこの名のほかに、わたしたちを救いうる名は、人間には与えられていないからです。（使徒行伝 4:12）

人々に与えられ、救いが得られる唯一の名前は、私たちの主イエス・キリストの名前です。

悪魔とその悪霊たちはこのことを知っており、イエスが地上にいた時、イエスを主であると告白しました。しかし、悪魔は人類を欺き、その尊い御名を決して信じさせないようにすることに成功しました。興味深いことに、宗教団体が信じているのもまさにこの神、すなわち私たちの主イエス・キリストなのです。

疑いなく、敬虔の奥義は偉大です。神は肉において現れ、御霊において義とされ、天使たちに見られ、異邦人に宣べ伝えられ、世界で信じられ、栄光のうちに上げられたのです。（テモテ第一 3:16）

ひとりの子供が私たちに生まれ、ひとりの子が私たちに与えられた。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。（イザヤ書 9:6）

ユダヤ人から狂気の預言者とみなされた、あの偉大な預言者が残したこの二つの聖句以上に証明すべきものがあるでしょうか。彼は主に従い、3年間裸で過ごしたため、ユダヤ人から狂気の預言者とみなされていました。また、ユダヤ人から浴びせられた非難を晴らすため、アグリッパ王とフェストゥス総督に語りかけた際、フェストゥス総督は偉大な使徒パウロに「多くの学識が彼を狂わせている」と告げました。しかし、地球上の何十億もの人々は、イエス・キリストが神ではないと、今もなお欺かれています。宗教には宗派や教派があり、彼らは大いなる神秘バビロンの娘たちです。大いなる神秘バビロンは、ニムロデの時代にバベルから出発し（創世記 11:1-9）、神によって宗教グループが解散させられた後、セミラミスとタンムズ（ニムロデの妻と息子）に受け継がれ、最終的にローマに定着しました。この娼婦の母はそこから他の宗教グループを産み始め、現在地球に満ち、娼婦の娘と呼ばれています。宗教はこの世界のシステムでは認められていますが、天国や来世では認められていません。彼らは反キリスト、罪人、滅びの子の花嫁であり、その頭なのです。一方、キリスト教は、真のキリスト教徒が実践する主イエスの教えへの信仰であり、主イエスが荒野から出て教えを始められた直後から広まりました。彼は洗礼者ヨハネから水のバプテスマを受け、聖霊を受けた後でした。十二使徒の最初の集会と共に、

イエス・キリストの使徒たち。キリスト教は、キリストの体である教会（神のために聖なる、この世のシステムから離れた人々）と共に活動するものであり、宗派が教会と呼ぶようなものではありません。彼らはこの世のシステムに属していないため、この世のシステムでは認められませんが、天国、そして来るべき王国では認められます。彼らは、彼らの頭である主イエス・キリストの花嫁です。また、多くの団体が建設し、真の聖徒たちの集まりを教会と呼ばれる特定の建物へと逸らしてきた物理的な建物とは一切関係がありません。そして、主ご自身がこう言われました。「二人または三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのである。」（マタイ18:20）

これは、主の名のもとに聖徒たちが集まることは、特定の場所や建物の中だけでなく、夫婦だけで家の中で行われることもできることを示しています。

第2章

ではクリスチャンとは誰でしょうか？

これは、キリスト教徒になるための段階についての真実を知りたいが、
る者によって、まるで爆弾のように投げつけられた、キリスト教を信
仰する多くの人々を壊滅させる質問です。聖書（ローマ10章3節）に
はこう記されています。「

主の名を呼び求める者はだれでも救われるのでしょうか。実を言
うと、この質問は、自称クリスチャンたちをひどく動揺させるでし
ょう。なぜなら、聖書を通してクリスチャン、そして真の弟子となるに
は何か必要かを彼らに示したら、クリスチャン界に大きな騒動が起
こるからです。ローマカトリック、英国国教会、長老派教会、メソジス
ト教会、バプテスト教会、キリスト王国協会（エホバの証人）などの
ような正統派教会の信者に、彼らの宗教について尋ねれば、答えは、
「私はクリスチャンです」となるでしょう。次に、天上キリスト教会、
十字架と星の兄弟団、キングサバトミッション、ケルビムとセラフィ
ムなどのような霊的教会の信者に、彼ら自身の宗教について尋ねれ
ば、彼らは、「私たちはクリスチャンです」と言うでしょう。アッセン
ブリーズ・オブ・ゴッド、フルゴスペル、スクリプチャー・ユニオン、デ
ィーパー・ライフ、チャーチ・オブ・ゴッド・ミッション、ゾーイ・ライフ・
ミニストリーズ、ニュー・ベテル・ミニストリーズなどのペンテコステ
派の教会やミニストリーに行ってください。

会員に彼らの宗教について尋ねれば、やはり答えは「私たちはクリスチャンです」でしょう。さらに、日曜日にどんな宗派の礼拝に出席しているかに関わらず、オカルト団体の熱心な信者に尋ねれば、「私はクリスチャンです」と答えるでしょう。さて、これらすべての団体、そしてここには挙げられていないもののキリスト教世界に属する多くの団体は、すべてクリスチャンとみなされています。しかし、正統派教会、霊的教会、ペンテコステ派教会という三つの宗派はそれぞれ独自の教義を持っており、それぞれが互いに異なっています。三つの宗派のそれぞれのグループの中にも、互いに異なる小さな教義がまだいくつか存在します。なぜこれほど混乱が生じるのでしょうか？

神の言葉は聖書一冊だけでしょうか？この質問への答えは「いいえ」です。聖霊によって認可された神の言葉は一つしかなく、それは1611年に出版された欽定訳聖書です。二つ目の理由は、真のクリスチャン、あるいは弟子が今や非常に稀少になっていることです。なぜなら、クリスチャンの家族が分裂し、彼ら（クリスチャン）はこの世の体制に縛られているからです。悪魔はこれにつけ込み、自らの手先を送り込み、キリスト教世界で高い地位を得ることに成功し、神の言葉を無力化しました。どうか、私はいかなる団体、教会、個人も裁いたり、誰かをサタンの手先と呼んだりしません。なぜなら、今日あなたが悪魔やサタンの手先と呼ぶ人を、神は明日変え、神の僕とすることができるからです。ですから、数年前に神の特別な恵みによって罪深い生き方から救われた罪人である私が、誰か、団体、あるいは誰かを裁くことを神は禁じてください。

教会。しかし、誰か、グループ、教会を裁く権利を持つのはただ一人、そしてクリスチャンという言葉の由来となっているのは、私たちの主イエス・キリスト、人類の救い主です。キリストだけが裁く権利を持ち、私たち神の僕である者には、すべての霊を試すための御言葉を与えてくださいました。主はこの聖句の中でこう言われました。「しかし、神の土台は堅く立っている。この印によって、主はご自分の者を知っておられる。キリストの名を呼ぶ者は皆、不義から離れなさい。」(テモテへの手紙二 3:19)

テモテへの手紙に記されているこの印章をあなたに与える神の根拠とは何でしょうか？この箇所をよく理解するために、オックスフォード辞典が印章をどのように定義しているかをもう一度確認する必要があります。「印章とは、蝋や鉛などでできたもので、模様が刻印されたもので、文書に貼付したり、本物であることを示すために、あるいは手紙、包み、箱、瓶、扉などに貼付して、権限のない者による開封を防ぐものです。また、何かの確認や保証、あるいは承認とみなされる行為や出来事でもあります。」

この説明をさらに進めると、オカルト団体の関係者やその関係者は、霊界で真のクリスチャンが認められる印章（署名と共に、あるいは署名の代わりに用いられる私印）があると教えてくれるでしょう。通常、この印章はクリスチャンの額に見られます。この印章を得るには、神によって基盤が確固たるものでなければなりません、あなたはその基盤がしっかりとしていることを、次のことを通して知ることができるでしょう。

神の言葉。この「クリスチャン」という言葉はどのようにしてキリスト教世界に、そしてどこから来たのでしょうか。

それからバルナバはサウロを捜すためにタルソスへ出発しました。そして彼を見つけると、アンティオキアに連れて行きました。そして、彼らは丸一年の間、教会に集まり、多くの人々を教えました。そして弟子たちはアンティオキアで初めてクリスチャンと呼ばれました。（使徒行伝 11:25-26）この聖句は、アンティオキアの人々がバルナバとサウロを一年間注意深く見守り、教会に集まり人々に神の言葉を教えている様子を見て、彼らが真に主イエス・キリストの教えに従っていることを確認し、彼らにクリスチャンという名を与えたことを示しています。クリスチャンとは、キリストの弟子、あるいはキリストの教えに従う者を意味します。

では、その基盤とは何でしょうか？

キリスト教？

クリスチャンになるには、新しく生まれ変わらなければなりません。これは、「すべての人は罪を犯し、神の栄光に達しない」（ローマ3:23）という聖書の言葉を信じ、自分自身も罪深い生き方によって神の栄光に達しないことを認めることを意味します。そして、神との和解を必要としていることを認め、神が御言葉の中で示してくださった、神との交わりを取り戻す唯一の道、すなわちイエスを通してのみ、神を求めるのです。

イエスは彼に言った、「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできない。」（ヨハネ14:6）

もし誰かが罪を犯したなら、私たちには父のもとに弁護者、
義なるイエス・キリストがいます。彼は私たちの罪のため、私たちの罪
だけでなく、全世界の罪のためにも、なだめの供え物なのです。

(ヨハネ第一2:1-2)。

変化が必要だと実感したなら、必ずしも聖職者集会や特定の宗派で
なくても構いませんが、自分の部屋でひざまずいて、主イエスに罪を告
白してください。

心で信じ、口で告白し、主があなたの罪を赦すためにあなたの身代わ
りとなって死んだこと、そして、主の血によってあなたの罪を清め、主
のいのちの書にあなたの名前を記して下さるよう主に願っていること
を告げなさい。そして、あなたが肉体にあって生き続ける限り、あなた
はあなたのために代価を払ってくださった主のために生きているので
す。こうしてあなたは生まれ変わり、あなたの内側で神の国の暮らしを
経験し始めますが、あと二つのステップを踏まなければ、まだ神の国
に入ることはできません。

まことに、まことに、あなたに告げます。人は新しく生まれ
なければ、神の国を見ることはできません。イエスは答えられました。
「まことに、まことに、あなたに告げます。人は水と霊とから生まれな
ければ、神の国に入ることはできません。」(ヨハネ3:3,5)

全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝
えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われる。しかし、信じない者は
滅びる。(マルコ16:15-16)

次の二つの段階は、水と聖霊によるバプテスマを受けることです。バプテスマは、正統派の宗派が説いている水を振りかける洗礼とは異なり、イエスについて何も知らない幼児や、主に自ら罪深い行いを告白して新しく生まれ変わっていない人には施せません。バプテスマはギリシャ語で「バプテスマ」と呼ばれ、水に浸す、あるいは水に埋めるという意味です。これは、あなたがすでに心で信じている、主イエスの死と復活への一体感を外的に示すものです。もしこれを行わないなら、イエス・キリストの死と復活に対するあなたの信仰は本物ではありません。なぜなら、あなたが心で信じ、口で告白することは、肉体的な行いによってのみ証明されるからです。ですから、新しく生まれ変わっているのに水のバプテスマを受けなければ、あなたはまだ救われていないのです。ペテロの言葉を聞いてください。「バプテスマもまた、それと同じようなひな型であり、イエス・キリストの復活によって、私たちを救います。(肉の汚れを除くのではなく、神に対する正しい良心の応答です。)」
(ペテロ第一 3:21)。

使徒パウロがここで何と言っているか見てみま

しょう。「それゆえ、私たちはバプテスマによってキリストとともに葬られ、その死にあずかっているのです。それは、キリストが父の栄光によって死人の中からよみがえらされたように、私たちも新しいのちに生きるためです。」(ローマ6:4)

繰り返しますが、これはサタンと世界を公然と拒絶するものなので、流れのある小川、あるいは川で行う必要があります。川や湖のない州、あるいは国では、プールや湖で行うべきではありません。

流れの中で洗礼を受けます。それから洗礼を司る牧師は、主が池で洗礼を行うことをお許しくださるかどうかを知るために、祈りの気持ちで主の御顔を求めます。流れの中で洗礼を行う目的は、過ぎ去りつつあることを世に示すことです。これは、あなたの古い命がその川や小川で過ぎ去り、あなたが今、その小川からよみがえり、キリスト・イエスにあって新しい命を生きることを意味します。第3段階は聖霊の洗礼で、これは新しい言葉で話すという外的なしるしがあり、その人が神の霊に満たされ、主イエス・キリストの印で封印されていることを示します。多くの牧師が、聖霊がパウロ兄弟を通して異言について言われたこと（1 コリント 12:30）を誤解しており、このことが、多くの自称信者が嘘を信じて盲目になっている原因となっています。

皆、癒しの賜物を持っていますか？皆、異言を話しますか？

皆が解釈するのでしょうか。（コリント第一12:30）

パウロ兄弟は、天使の異言を語る賜物、つまり預言の賜物について話していました。兄弟の集会でこの賜物が語られる時は必ず、教会全体を啓発するために、それを語る本人か、あるいは他の者による解釈が伴わなければなりません。キリスト教世界において、今や世界的に、この賜物を持つ人は非常に稀です。天使の異言とその解釈の賜物を持っていると主張する人のうち、実際にそれを持っている人は5%にも満たないのではないのでしょうか。多くの人が賜物を与える方よりも賜物を好むため、牧師の中には占いの霊を持つ者と連絡を取り合う人もいます。

偽りの異言の解釈を与えて人々を欺く者もいます。しかし、真の天使の異言の賜物を持つ者が語り、解釈する時、それは明らかに預言です。なぜなら、教会全体が徳を高めるからです（コリント人への第一の手紙二一章）。

（使徒行伝 14:5）人の霊が封印されたことの外的なしるしとして先ほど述べた他の言語とは、人の言語です。これは、その国の国民でもなく、学校で学んだわけでもない人が、その国の言語を話すことです。それを話す人は、何が話されているのかさえ理解できません。しかし、神がその国の言語を話者に与えた人が、その言語を聞くなら、理解できるでしょう。（使徒行伝 2:5-11）

なぜなら、彼らはどもった唇と異国の舌でこの民に語るからである。
（イザヤ書 28:11）

信じる人々には、次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。蛇をつかみ、どんな毒のものを飲んでも、何の害も受けない。病人に手を置けば、病人は癒される。（マルコ16:17-18）

それゆえ、異言は信じる者ではなく、信じない者へのしるしであり、預言は信じない者ではなく、信じる者へのしるしです。（コリント第一 14:22）

私は、この3人の証人からの引用を信じています。
イザヤによって語られた預言者、主イエスご自身である恵み、そして偉大な使徒パウロによって語られた恵みのしもべたちによって、まだ疑いを抱いている者を清めることができるであろう。

新語で話すことがその人にとって適切かどうかは、当事者が新生したかどうかにかかっています。新生した人にとって、それは未信者への証として、必ず受けるべきものです。聖霊のバプテスマを受ける前に聖化されなければならないと主張する人たちは、これもまた欺瞞です。彼らは、3年半の聖化と主との働きを経て聖霊のバプテスマを受けた初期の使徒たちの例を挙げます。しかし真実は、ヨハネ17:17,19に見られるように、彼らは聖霊が来て、彼らが聞いた言葉を通して聖化されるまで、聖化さえされていませんでした。第二に、イエスが死んで栄光を受けなければならなかったため、彼らは3年半も待たなければなりません（ヨハネ7:38-

39)聖霊が与えられる前には、主を信じた者は皆、ただちに水と聖霊によるバプテスマを受けました（使徒行伝2:38-39、19:2-7）。

神はなぜ私たちに語りかけることを選んだのか

別の言語？

神は全知であり、これは神が無限の知識を持ち、また全てを知っていることを示しています。神は全能であると同時に、遍在でもあります。遍在する力によって、神は御霊を通して同時にあらゆる場所に存在し、あらゆる神秘を理解することができます。だからこそ、神はあなたがどんな言語で神とコミュニケーションをとろうとも、理解できるのです。サタンもまた、地上の人間の言語はすべて理解できると言われていますが、天使の言語は理解できません。これはサタンが遍在していることを示すものではありません。

決してそうではありません。むしろ、サタンは神を模倣しているのです。サタンが行うのは、地球と人間の創造の何千年も前から存在し、サタンの霊を人間に注入することに成功し、その結果人間は墮落したからです。そして、神がバベルで人間の言語を混乱させた後（創世記11:1-9）、サタンは人間の営みを支配するための新たな方法を考案しました。

神の賜物と召命には悔い改めの必要がないからです。

（ローマ11:29）

サタンはこの聖句を利用し、神から与えられた偉大な力、知恵、そして知識の賜物（エゼキエル書28章12-17節）によって、彼がまだ神の御座の前にいた頃（しかし、私たちが受け継いだイエスに与えられたものとは比べものになりません）、悪霊たちを送り込み、地上のあらゆる人々の家族にこれらの新しい言語を学ばせました。こうして、彼ら（悪霊たち）は、人間が理解している同じ古い言語を用いて、フィードバックを与えることが可能になりました。サタンはそこで止まらず、さらに悪霊たちを増殖させ、妊婦と胎児に取り憑かせ、まだ生まれていない胎児にこの反逆の性質を植え付けました。だからこそ、ダビデ王はこう言ったのです。

見よ、わたしは咎によって形造られ、わたしの母は罪のうちにわたしを宿した。（詩篇 51:5）

そこに記されている罪と不義は、悪霊の影響によるものです。しかし、人が生まれた後、悪魔は七つの霊を送り、生まれた日からその人の人生に影響を与えます。

そして、その報告が悪魔自身に届くまで、彼が設置した権威の経路に報告します。これらの霊はあなたが成長するにつれてあなたを監視しているので、あなたが学ぶのと同じように、彼らもあなたの言語を学んでいるため、あなたの言語を非常によく知っています。これらの霊は先祖霊または使い魔と呼ばれ、そうです、彼らはあなたの人生に精通しています。しかし、オカルト王国では、彼らは運命と生命の輪の守護天使と呼ばれています。そして、あなたが生まれ変わったクリスチャンになると、聖霊はあなたに、使い魔が決して習得できない別の国の言語を話す発言力を与えます。そのため、私たちの主とのコミュニケーションはこれらの霊によって影響されず、彼らは神とのあなたの関わりについて何を報告すべきかわかりません。

最後に、クリスチャンになるには、新しく生まれ変わり、水と聖霊によるバプテスマを受けなければなりません。しかし、このステップは建物の基礎を築くようなものです。家は、誰か（聖霊）がそこに住むために建てられなければなりません。そして、家を建てるためには、弟子として、神の権威の経路の下に身を置く必要があります（私の著書『服従、神の権威の経路、そして神の国への唯一の道』を参照）。神の言葉に従い続け、それを実践しなければなりません。（ヨハネ8:31-32）

第3章

真の

イエスの弟子

この章をうまく扱うためには、「弟子」の意味を理解することが重要です。オックスフォード辞典によると、「弟子」とは、宗教思想、芸術、学問などの指導者の追随者を意味します。世界のすべての宗教グループには、故人であろうと生きている人であろうと、指導者がいることに留意する必要があります。そして、彼らの教え、生活様式に従い、戒律を守る人々は皆、そのような指導者の弟子とみなされます。しかし、キリスト教世界では、信者（新生、水の洗礼、聖霊キリスト教徒）の10%以下しか、聖書に明確に概説されている、私たちの指導者、主イエス・キリストの教義に従っていないと思います。多くの人々が、非常に多くの宗派指導者の弟子となっています。そして、世界中の何百万もの信者は、指導者に誠実に従っていますが、現在の真理が何であるかを知らないために、真理に対して心を閉ざした多くの有力者によって、彼らは迷わされています。異邦人の使徒長であったパウロ兄弟は、このことが起こることを予見し、テモテとキリスト教世界全体に警告してこう言いました。

御言葉を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても熱心に説教し、あらゆる忍耐と教えをもって戒め、叱責し、勧告しなさい。

健全な教えに耐えられなくなり、自分の欲のままに、耳障りな教師たちを寄せ集める時が来ます。そして彼らは真理から耳を背け、作り話に心を奪われるでしょう。（テモテへの手紙二 4:2-4）

私たち信者が律法主義、つまり宗教律法主義の領域に深く踏み込んできたことに、本当に心が痛みます。律法主義とは、神ご自身が定めていない（あるいは神の言葉の健全な教義に反する）規則（律法）を人間が定め、それを守ることでの義を得ようとする行為と定義されます。

キリスト教は、誰か、グループ、宗派などによって押し付けられた規則の集まりではありません。それは単に、聖霊を通して主イエス・キリストと個人的な関係を持ち、神の言葉によって裁かれることです。他の宗教グループが父なる神に至る唯一の道である主イエスを無視してきたように、キリスト教徒も主イエスとの親密な関係を築く唯一の道である聖霊を無視してきました。ヨシュアもモーセの後を継いでイスラエルの民を神の御国へと導くよう油が注がれた時、同じ過ちを犯したでしょう。

約束の地。荒野で生まれ、エジプトで割礼を受けなかったイスラエルの子らは、二度目の割礼を受けた後すぐに癒されるとエリコに近づきました。

ヨシュアがエリコの近くまで来たとき、目を上げて見ると、そこに立っていた。

ヨシュアは彼のところに行き、「あなたは我々の味方なのか、それとも敵の味方なのか」と尋ねた。彼は「いいえ、私は主の軍勢の長として来たのです」と答えた。ヨシュアは地にひれ伏して拝み、「わが主はしもべに何とおっしゃるのですか」と言った。主の軍勢の長はヨシュアに言った、「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っている場所は聖なる場所なのです」。

そしてヨシュアはそのようにした。（ヨシュア記 5:13-15）

勇敢な兵士であったヨシュアは、自分のやるべきことを計画し、その時代には天使であったが、現代では聖霊であるこの男のところへ行き、私たちの計画に参加するために来たのか、それとも敵の計画に参加するために来たのかと尋ねました。主の天使は、とんでもない、私は誰の計画にも参加しません。あなたが自分の計画がどれほど良いと思っても、私は参加しません。私には主から別の任務があり、もしあなたが私に参加したいのであれば、そうすることができます、と言いました。ヨシュアは、天使が彼らを導くために主の名において来たことを認識し、天使を崇拜しました（私たちは天使を崇拜してはいけません）。彼はすぐに天使に、どんな指示に従えばよいのですかと尋ねました。天使は、あなたの足からくつを脱ぎなさい、つまりあなたの權威や意志を私に明け渡し、私が引き継ぐと言いました。ヨシュアは彼に従い、その時から主の軍勢の目に見えない指揮官（ヨシュアは二度と彼に会うことはなかった）が戦い、イスラエルの民を約束の地へと導いた。私たち信者は皆、それを見たことがあるだろうか？もし私たちがすべての計画を個別に中止し、

もし私たちが皆で聖霊の導きに従っていれば、聖霊は私たちを安全に導いてくださり、キリスト教世界におけるあらゆる混乱は消え去っていたでしょう。不信仰な世界は私たちを主イエスの真の弟子として認め、クリスチャンと呼んでいたでしょう。聖霊がパウロを通してこう言われたのも不思議ではありません。

神の御霊に導かれる者は皆、神の子どもなのです。（ローマ 8:14）

真の

イエスの弟子？

あなたが主イエスの真の弟子になりたいのなら、まず心に留めておくべきことは、主がダビデを通して言われた、「わたしの聖徒たちをわたし

のもとに集めよ。わたしと契約を結んだ者たちを犠牲によって。」（詩篇 50:5）

この箇所は非常に重要です。なぜなら、主はすべての信者を集めよと言われたのではなく、聖徒を集めよと言われたからです。さらに、主は犠牲によって主と契約を結んだ者だけを望んでいるとおっしゃいました。ここで問題となるのは、どのようにして契約を結ぶのか、そして主はどのような犠牲について語っているのかということです。契約には必ず犠牲が伴わなければならないこと、そして受け入れられる犠牲には必ず血が流されることを心に留めておくことが重要です。契約なしに神とのいかなる関係（神への犠牲）も結ぶことはできませんし、犠牲なしにいかなる契約も結ぶことはできません。そして、血を流すことなしには犠牲はあり得ません。

(人間の意志をすべて捨て去ること)。だからこそ聖霊はパウロを通してこう言われたのです。「遺言があると

ころには、必ず遺言者の死が伴わなければならない。遺言は人が死んでから効力を持つ。そうでなければ、遺言者が生きている間は全く効力を持たない。」

(ヘブライ9:16-17)

聖書では、遺言は契約と同じものなので、自分自身を完全に否定して死ぬ覚悟をしなければなりません(主の権威を通して自分の意志を主に明け渡すこと。このテーマに関する私の本を参照してください)。

主が私たちに犠牲にしてほしいこと

もし主が私たちに捧げてほしいのが、お金、土地、家、衣服、車といった物質的なもの、あるいは祈り、断食、伝道、クルセード、セミナー、会議の開催といった霊的なものだけなら、多くの信者がこれらの分野で優れた成果を上げていると言えるでしょう。しかし、主はそれらすべてよりもはるかに偉大なものを望んでおられます。だからこそ主はこう言われたのです。「兄弟たちよ、神の憐れみによって、私はあなた方に勧めます。あなたがたの体を、神に受け入れられる、聖なる、生きた供え物としてささげなさい。これこそ、あな

たがたにふさわしい礼拝です。」

(ローマ12:1)

それゆえ、イエスはこの世に来られたとき、「あなたはいけにえや供え物を望まれない。ただ、わたしのために体を備えてくださったのです」と言われました。(ヘブライ10:5)

新約聖書時代の私たちにとって、この箇所は聖霊が私たちの肉体に来るとき、つまり

イエスは、この世において、死んだものや、その血で罪を消し去ることのできない動物の犠牲や供え物ではなく、私たち自身の肉体の犠牲を望まれると仰いました。これは、死んだ動物と何ら変わらない意志や欲望を持たずに、神への奉仕のために捧げられる、祭壇に捧げられた命を意味します。また、それは神に絶対的に、無条件に身を委ねるといふ心の姿勢も意味します。だからこそ、神に受け入れられ、聖なる犠牲となるには、私たちの罪を償うために用いられる血を伴わなければならないのです。

主は私たちにどこへ行ってもほしいのか

彼に犠牲を捧げますか？

私たちは山や寺院、洞窟、家の中、谷間、荒野などで主に犠牲を捧げているでしょうか？

再び、私たちの愛するパウロ兄弟は、聖霊が彼を通して語ったことによる答えを得ました。

大祭司によって罪のために血を聖所に携え入れられた獣の死体は、宿営の外で焼かれるからです。ですから、イエスもまた、ご自身の血をもって民を聖別するために、門の外で苦しみを受けられました。ですから、私たちは、彼の非難を負って、宿営の外へ、彼のもとへ出かけましょう。（ヘブライ13:11-13）

この聖句はすべてを物語っています。イエスはエルサレム（宗派の象徴）の外で、ご自身の血によって私たちが聖別するために亡くなられたように、私たちが陣営の外（宗派や世界のあらゆる組織化された宗教制度の外）からご自身のもとに来ることを望んでおられるのです。なぜでしょうか？それは私たちがイエスの非難に耐え、イエスの血が

私たちを聖別してください。この陣営の外こそ、この世のいかなる組織化された宗教制度にも関心を持たない神（主イエス）の真の幕屋に入り、霊と真理をもって神を礼拝できる場所です。聖霊は、出て来ることに同意する者を既に待ち望んでおり、このように訓練された神の油注がれた者たちのもとにあなたを置き、御国への真の道を導き、教え始めるでしょう。

主は、あなたにどのように主の声を聞き、どのように従い、どのように主のために迫害に耐えるかを教え始めてくださいます。旧約聖書の出エジプト記33章1-11節で、主はイスラエルの民にも同じことをなさいました。モーセに幕屋を建てるように命じ、幕屋を宿営の外に張らせました。それは、主を求める者が皆、宿営の外に出て来て、幕屋で神に会うためでした。

しかし彼らは幕屋に行くことを拒否し、主と直接個人的な関係を持つ代わりに、モーセが彼らに話しかけることを許してくださいと神に懇願しました。また、サマリアの女が主を律法、つまり人間の理性に従わせようとしたとき、主はこう言われました。

イエスは彼女に言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたがこの山でもエルサレムでもない所で父を礼拝する時が来ます。あなたがたは何を礼拝しているのか知らないが、わたしたちは何を礼拝しているのか知っている。救いはユダヤ人（霊と真理をもって礼拝する真の礼拝者）から来るからである。」
しかし、真の礼拝者が父を霊と真理をもって礼拝する時が来ます。そして今がその時です。父はそのような礼拝者を求めておられるからです。神は霊です。

彼を礼拝する者たちは、霊と真実をもって彼を礼拝しなければなりません。（ヨハネ4:21-24）

この声明によって、そして今もそうであるように、特定の場所で主を礼拝することは聖霊において廃止されましたが、主の死と復活の後、聖霊が初めて人の内に宿った時、自然界において正式に現れました。ヘブライ人への手紙10章25節を根拠に神に背き、自らを正当化する多くの信者は、自己欺瞞に陥っています。なぜなら、イエスはマタイによる福音書18章20節で、「わたしの名によって二人または三人が集まっているところには、わたしもその中にいる」と語っておられるからです。これは、少なくとも二人または三人がイエスの名によって真に集まっているところならどこでも、イエスは彼らの中におられることを示しています。これをさらに明確にするために、主はこう言われました。

あなたは祈るときには、偽善者たちのようであってはならない。彼らは人々に見られるために、会堂や通りの角に立って祈ることを好むからである。よく言うておく。彼らはすでに報いを受けている。しかし、あなたは祈るとき、自分の奥まった部屋に入り、戸を閉じて、隠れたところにおられる父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父は、あなたに報いを与えてくださるであろう。（マタイ6:5-6）

主イエスご自身がヨハネ4章22節で、山やエルサレム（宗派の象徴）に行くと、何を礼拝しているのか分からなくなるとおっしゃいました。なぜでしょうか？主はそこにおられるのではなく、主の御名によって奇跡が起こっても当然だと思ってください。そうです、主は御名が呼ばれるところならどこへも行かれるのです。

その名の力を現すために言及されていますが、それはイエスが誰かの計画に参加するという意味ではありません（マタイ1:13参照）。

（マタイ伝7:21-23）そしてイエスは、マタイ伝6:5-6で、会堂や街角、例えば伝道集会の会場や広場などで祈るなら、あなたは人に見られたいと願う偽善者であり、報いはない、と締めくくられました。

イエスは、祈りたいときには、神との秘密の個人的な関係を持つために自分の部屋に入りなさい、そうすれば、公に報いが与えられる（つまり、神があなたを祝福すると人々がわかる）と言いました。

結論として、あなたが主の弟子になりたいのであれば、そして本当に主の弟子になりたいのであれば、次の3つの条件を満たす必要があります。

- a) あなたは神と契約関係を結ばなければなりません。そしてそれは宿営地の外で行わなければなりません。
- b) あなたは自分の体を生きた供え物として捧げなければなりません。それは、あなたが経験する迫害を通して焼かれ、キリストのように完全になるまで続きます。詩篇にはさらにこうあります。「主の言葉は純粋な言葉である。地の炉で七度精錬された銀のようだ。」（詩篇12:6）神の純粋な言葉が試される地の炉とは、私たちの体です。

七度清められるということは、主がこの清い言葉を私たちの体の中で試し続け、人が銀のように完全に栄光に満ちた者となることを意味します。これは、神の数え方において七という数字が完全性、あるいは完全性を表し、銀は贖いを表すからです。そしてこれは、神が私たちの体の中で試し続けてくださることを示しています。

私たちが完全になり、救われるまで、その言葉を私たちの肉体に焼き付けなさい。

- c) あなたは血を流さなければなりません。これはまた、主イエスがあなたの上に立てる、油注がれた神の人を通して、あなた自身の人間としての意志を主イエスに明け渡すことの象徴でもあります（私の著書『服従：神の權威の経路であり、神の王国への唯一の道』を参照）。意志を明け渡すことと血を明け渡すことはどのように関係しているのでしょうか？そして、ほとんどすべてのものは律法によって血によって清められており、血を流すことなしには罪の赦しはありません。（ヘブライ1:13）

(9:22)血とあなたの意志の関係は、地上の肉体の命があなた自身の血の中にあり、あなたの人間としての意志もまたあなたの血の中にあるということです。もしあなたの血が完全に乾き、別の肉体があなたに与えられたなら（あなたが持っている肉体は朽ち果てなければならないので）、あなたは肉と骨で満たされ、それがあなたの魂の体、つまり天の体となります（私の著書『キリストの影としての仮庵』を参照）。その体では、地獄に行くか天国に行くかという意志はなく、（つまり）地上の体にいるときのように自由意志を行使することはできません。

肉の命は血にある。わたしは、あなたがたの魂のために贖いをするために、それを祭壇（イエス）の上であなたがたに与えた。血こそが魂のために贖いをするからである。（レビ記 17:11）イエスが私たちのために道を開いてくださったので、すべての真の弟子は魂の贖いとして自らの血を流さなければならないことがお分かりいただけるでしょう。もし自分の血を惜しまないなら、あなたは滅びるでしょう。信者が弟子であることは

契約を交わした後で、それを守らずに口先だけで約束することがないように注意しましょう。なぜなら、一度神との契約を交わした後、それに戻ると、あなたは霊的に死ぬからです。しかし、最後まで耐え忍ぶことができれば、豊かな恵みが解き放たれてあなたを支えることになり、最終的には良い実を刈り取ることになります。恐れや人生の快樂のために、神との契約関係に入らないと決めるなら、これまでずっと結んできた悪魔との契約は継続し、反キリストが来た時にその代価を払うことになり、やはり地獄で滅びることになります。しかし、彼が来る前に死ぬなら、完全な愛のうちを歩んでいない限り、地獄で歯ぎしりすることになります。そして、完全な愛とは神の言葉に対する完全な服従です。ですから、神に従わなければ、この愛のうちを歩むことはできません。

第4章

真の弟子の資質

イエス

もし真の弟子が持つべき資質がないのであれば、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストが、彼に従うことの代償を計算するように私たちに告げたとは思えません。

あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、まず座って、完成させるのに十分な費用があるかどうかを計算しない者がいるでしょうか。そうしないと、基礎を築いた後で完成できず、見るすべての人が嘲笑して、「この人は建て始めたが、完成できなかった」と言うでしょう。（ルカ14:28-30）

これは必要なことです。なぜなら、私たちの救い主ご自身も、人類を救うために命を犠牲にするための代償を計算されたからです。主は苦しみと報いを比較し、喜びが苦しみよりもはるかに大きいことを知りました。だからこそ、聖霊なる主はパウロ兄弟を通して語られたのです。

キリスト・イエスにもあったこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。キリストは神の御姿でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは考えませんでした。かえって、ご自身を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。そして、人と同じ姿で現れ、へりくだって、死に至るまで従順でした。

十字架の死。それゆえ、神はキリストを高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

(フィリピ2:5-9)

ここで主イエスについて最初に注目すべきことは、イエスは自らを召使とし、誰にも強制されなかったということです。

その偉業の秘密は、イエスが召使いの姿をとって現れ、死ぬまで従順であったことです。

したがって、弟子の第一の資質は、進んで従うことです。イザヤはこう言ってその答えを示しています。「もしあなたがたが進んで従うなら、地の恵みを受けるであろう。」

(イザヤ1:19)地の繁栄は、あなたが弟子としての生涯を終えるときに得られる報酬です。

弟子が持つべき二つ目の資質は熱意です。熱意とは情熱を意味し、熱意とは強い尊敬や関心の気持ちです。主は知識人なしでも、あなたの富なしでも（結局のところ、主は地上のすべてを所有しておられるのですから）、あなたの力なしでも、そして障がいのある人々とさえうまく働くことができます。しかし、主は、ご自身への強い熱意を持たない人とは関わりを持ちません。だからこそ、世間は真の弟子を狂信者と呼ぶのです。しかし、あなたはすべての人間が狂信者であることを忘れていませんか？あなたは教育、ファッション、女性、男性、宗教、食べ物、スポーツ、支配権、金銭、タバコなど、何かに熱狂しています。この地上で、何かに強い関心を持たない人はいません。もしあなたの心が救い主への大きな情熱で満たされていなければ、弟子になることはできません。主は

イエスは、「あなたの家に対する熱心がわたしを食い尽くしました」と言われたとき、御父に対する大きな情熱に満たされていました。（ヨハネ1:14）

（2:17）イエスはどの神の家を秩序正しく保つことに熱心に努められたのでしょうか。神の真の神殿は、あなたと私です。主が神殿から商売の魔物を追い払うために作られた縄の鞭は、神への主の熱意を示すものであり、また、神の家である私たちの器から、悪霊どもが商売をしている場所から主が今、どのように追い払っているかの象徴でもあります。

主の熱意は非常に強かったので、人々が何と言うか、また、主の教えが家族、国家としてのイスラエル、そして全世界に何をもたらすかについて、主は心配しませんでした。

わたしは地上に火を投げるために来た。もしそれがすでに燃えていたら、わたしはどうするだろうか。しかし、わたしには受けるべきバプテスマがある。それが成るまでは、わたしはどれほど苦しむことだろう。（ルカ1:14）

（12:49-50）イエスは地上に真理をもたらし、人類を奴隷状態から解放するために遣わされました。そのためには、ご自身の命を危険にさらさなければならないことをイエスはご存じでした。ですから、いかなる脅迫も、イエスに与えられた使命を成し遂げようとする熱意を止めることはできませんでした。

洗礼者ヨハネもまた、神への熱意にあふれた人でした。主は彼の熱意を認め、「彼は燃える光であり、あなたがたはしばらくの間、彼の光の中で喜び楽しもうとした」（ヨハネ5:35）と言われました。これは重要な意味を持ちます。なぜなら、あなたがどんなに嘲笑されても、主への熱意を目にしなければ、世は動かされないからです。真の弟子が主のために熱心であるべきことを示すのに、この偉大な使徒が預言者アガボに仕え、語ったこと以上に、他に何の証拠があるでしょうか。

エルサレムでどんな苦しみを味わうことになるかを告げて、パウロの思いを思いとどませようとしたのです。パウロの答えを聞いてください。

あなたたちは何を思って泣いて私の心を傷つけるのですか？

わたしは主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られるばかりでなく、死ぬことも覚悟しているのです。（使徒行伝 21:13）

パウロはエルサレムで死ぬ覚悟をしていました。誰のためでしょうか？主イエスの御名のため。誰かのために熱意を持つことが、このような結果をもたらすのです。

真の弟子の3番目の資質は信仰です。

これを理解するには、パウロ兄弟が聖霊の導きによって信仰を次のように描写したことを考えてみる必要があります。「信仰とは、望んでいる事からを確信し、目に見えない事実を確認することです。」（ヘブライ人への手紙 11:1）

ここでは、信仰は明日や今日以降にあるとは言われていません。今、つまりすぐにあるという意味です。信仰は希望ではありません。なぜなら、信仰のない希望には実体がないからです。実体とは、私たちの感覚で知覚したり接触したりできるものを意味しますが、その印象は私たちの精神の感覚機構、つまり信仰によってもたらされます。自然界では、それは目、耳、鼻などです。実体は有形で、物質性を意味します。視覚的なものではなく、霊的なものであり、神の領域です。そして、証拠とは証明を意味し、証明は裏付けとなる事実を与え、現在あなたが持っていないものの存在を現実のものにしてくれます。証明は、証明すべきものが現れるまで、証明すべきものの代わりになります。したがって、信仰は霊的な力の活性化装置と言えるでしょう。それは、私たちの人生と状況において全能の神の力を解き放ちます。主の信仰は、人間にとって可能性の領域で作用するものではありません。

神は栄光を奪うことはできないからです。信仰の領域は、人間の能力が限界に達したところから始まります。信仰の力は、可能性、視覚、そして人間の理性があなたを裏切ったところから始まります。そして、あなたの信仰は神を舞台へと導くのです。主は以前こう言われました。

よく言うておくが、もしからし種一粒ほどの信仰があれば、この山（問題）にむかって、「ここからあそこに移れ」と言えば、移るであろう。そして、何事もあなたたちにできないことはない。（マタイ伝 1:13）

（17:20）どんな問題も乗り越えられるのは、主イエスへの信仰だけです。あなたが神への信仰に基づいて行動できないなら、神はあなたを助けることはできません。しかし、もしあなたが神のような信仰を持ち、それに基づいて行動するなら、あなたは神の領域へと進み、そこでは何も不可能なことはありません。

しかし、信仰がなければ、神を喜ばせることはできません。なぜなら、神に近づく者は、神が存在しておられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないからです。（ヘブル11:6）
神には、ご自身が活動される領域があり、それは信仰の領域です。もしあなたがその領域を歩むことができないなら、あなたは神の弟子となることはできません。なぜなら、あなたが何をしても神を喜ばせることはできないからです。もしあなたが信仰の領域を歩むと決意するなら、あなたは必ず試練を受け、あらゆる人間的資源が尽きるまで耐え忍ぶでしょう。同胞に助けを求める誘惑に駆られるでしょう。しかし、あなたが主を信頼するなら、あなたはただ主のみ助けを求めるでしょう。だからこそ主は「義人は信仰によって生きる」と言われたのです。これはさらに、あなたがこの地上で義なる人生を送るには、神の言葉に従って行動するしかないことを示しています。主はジェレミーを通してこう言われました。

人に頼り、肉なるものを自分の腕とし、その心が主から離れ去る人は呪われよ。（エレミヤ書 1:1）

（17:5）もしあなたが人に頼るなら、あなたの心は主から離れずにはいられません。もしあなたが直接的にせよ間接的にせよ、自分の欲求について人に不平を言い始めるなら、あなたは信仰生活から離れ、神を裏切っているのです。それは神があなたを見捨て、どこか他の場所で助けを求めなければならぬと言っているのと同じです。あなたは多くの困難、病気、試練、死別（金銭面、物質面、非物質面など）、神が許すならば鞭打ちや投獄、危険、徹夜、断食、苦難、飢饉、困窮に直面するでしょう。しかし、これらすべて、そしてさらに多くのことが信仰の試練なのです。これらの試練をすべて乗り越えた後、知恵と知識の賜物があなたの器を通して流れ出るでしょう。パウロはこれを試して、「信仰の戦いを勇敢に戦い抜き、永遠の命を得なさい。あなたはそのためにも召され、多くの証人の前で立派な信仰告白をしたのです」（テモテ第一 6:12）と言いました。

私たちは、揺らぐことなく、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。（約束された方は真実な方ですから。）（ヘブライ10:23）
神が私たちに戦うよう促す唯一の戦い、つまり良い戦いと呼ばれる戦いは、私たちの信仰です。主イエスへの信仰は一種の信仰告白であり、生計を立てるために携わったり、行ったりする職業のようなものだからです。物理的に言えば、生計を立てている仕事や事業を失うと、人生に影響を与えるほどの大きな損失を被ることになります。

同様に、もし信仰を失えば、あなたのすべての苦しみは無駄になります。なぜなら、報いが得られないからです。

真の弟子の4番目の資質は愛です。

愛とは何かを理解するのは良いことです。なぜなら、世間で愛と呼ばれているものはすべて愛ではないからです。つまり、愛とは、神の言葉に無条件に完全に従うことを意味します。

ここでの条件とは、状況が好転した時には主に完全に従うが、困難に直面すると愛が冷えてしまうことを意味します。私たちのうちの誰が、「父よ、なぜ私を見捨てたのですか」と言いながら、死に身を委ねることができるでしょうか。しかし、真の弟子にはそれが求められています。なぜでしょうか？それは、たとえ主のために命を失ったとしても、復活において必ず命を見いだせると信じなければならぬからです。（ヨハネ12:25）

わたしの戒めを心に留めてそれを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者はわたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現すであろう。（ヨハネ14:21）

イエスはまたこうも言われました。「もし人がわたしを愛するなら、わたしの言葉を守るであろう。わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のもとに行き、その人とともに住むであろう。」（ヨハネ14:23）

神への愛を表す唯一の方法は、神に従うことです。そうすれば、神はあなたにご自身を現してくださいます。神の言葉を守ることによって神を愛さなければ、神はあなたの内に宿ることはありません。なぜなら、愛だけが神をどんな器にも宿らせることができるからです。

神への愛を表すもう一つの方法は、同胞を愛することであり、これは同胞に対する神の言葉に従うことです。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。これがわたしのいましめである。（ヨハネ15:12）

神を愛していると言いながら兄弟を憎む人は、偽り者です。見ている兄弟を愛さない者に、見たことのない神をどうして愛せるでしょうか。神を愛する者は、兄弟をも愛しなさい。これは、わたしたちが神から受けた戒めです。（ヨハネ第一 4:20-21）

兄弟姉妹との関係について、神が御言葉の中で何を命じているかを知っているなら、それに従ってください。それは彼らへの愛を示すことです。そして、信仰を持たない世の人々に対しても、彼らを愛し、祝福してください。たとえあなたの信仰を攻撃する人々であっても、あなたを憎む人々に善行を施し、彼らのために祈ってください。すべての人と平和に暮らしてください。これは、誰もあなたの敵ではないことを示すためです。しかし、どんなことでも信仰を妥協してはいけません。神に背いて彼らを喜ばせようとするようなことがあれば、決して妥協しないでください。もしあなたがそのせいで誰かに憎まれたとしても、彼らが憎んでいるのはあなたではなく、主なのです。

しかし、このことは、彼らの律法に書いてある言葉が成就するために起こったのです。彼らは理由もなく私を憎みました。

（ヨハネ15:25）

神への従順さゆえにあなたを憎む者は、主イエスを憎み、自らに破滅をもたらしているのです。しかし、もしあなたが彼らの憎しみを無視し、熱心に主に従うなら、あなたの行いが主の御心にかなうなら、主はあなたと彼らの間に平和をもたらして下さいます。

人の道が主に喜ばれるとき、主は敵をもその人と和平させて下さる。（箴言 16:7）

神はあなたが神に忠実に従い、
家族の絆などの背後に、彼はあなたの人々と

ダビデの兄弟たちが彼に行ったように、あなたを探し出してあなたの信仰に加わってくれる良い友人がいます（歴代誌上12:16-18）。

真の弟子が備えるべき資質は他にも数多くありますが、本書ではこの5番目を最後に取り上げます。それは「戦争」です。戦争のより良い意味を理解するために、戦争が何を意味するのかを見てみましょう。戦争とは、武器、戦略、戦術を用いて戦う科学、あるいは芸術です。したがって、「戦争」とは、戦争を起こすこと、戦争状態、戦闘を意味します。戦争においては、双方が危険な武器を使用し、多くの戦略が練られ、戦術の専門家たちは作戦を遂行するために様々な手段を講じます。真の弟子たちは、自分たちが戦争状態にあることを認識し、今日のキリスト教界に見られるような、このような空回りの娯楽をやめるべき時が来ています。弟子であることは、現代のキリスト教世界で一般的に見られる贅沢な生活や快楽の追求ではなく、むしろ死闘と闇の勢力との絶え間ない闘争なのです。

内部で分裂した王国は滅び、家に対して分裂した王国や家は倒れる。（ルカ11:17）

分裂した王国や家は存続できないので、キリストの真の弟子は一致しなければならないことを心に留めておくことが重要です。そして、この真の一致に至る最も簡単な方法は、互いに服従する謙遜さです（ペトロの手紙一 5:5、拙著『服従、神の権威の経路、そして神の王国への唯一の道』を参照）。私は、現在多くの牧師が唱えているような宗派間の一致を主張しているわけではありません。その一致とは、神秘のバビロンにおける一致です。

そしてその娘たちも、神が彼らのバベルの塔を滅ぼしたように滅ぼすであろう。戦争では、禁欲、苦しみ、従順、危険に立ち向かう勇気、武器の使い方の技術、敵とその戦術に関する知識などが必要である。敵に対する真の弟子の武器は、断食と神の言葉の啓示の知識の中を歩むことを伴う熱心な祈り（うめき、苦勞、涙、ほえる、わめき、泣き叫ぶ、異言）である。もしあなたが昼も夜も敵の陣営に爆弾を投げ込んでいるなら、彼にはあなたを打ち負かすチャンスはない。また、もしあなたが神の言葉の啓示の知識の中を歩んでいないなら（すなわち、神の言葉をどのように分け与えるかを知っていないなら）、それは霊の剣である、悪魔はあなたを終わらせるであろう。悪魔はあなたに矛盾したメッセージを与えて、主からの真のメッセージに疑いを抱かせるであろう。神は科学、空虚な哲学、そして人間の言い伝えによってあなたに対抗します（コロサイ2:8、テモテ第一6:20-21）。もしあなたが神の言葉の啓示的な知識に流れ込んでいないなら、あなたの信仰は失われてしまうでしょう。真の弟子は、敵とその戦術について深く理解しているべきです。パウロはこう言っています。「それは、天にある支配と権威に、神の豊かな知恵が教会を通して知られるようになるためです。」（エペソ3:10）

神は教会が闇の王国について知ることを意図しておられます。だからこそ、神は私たちが兵士として入隊することを望んでおられるのです。なぜなら、これはキリストの兵士にのみ明らかにされているからです。パウロ兄弟はまたこう言いました。

私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、支配、権威、暗黒の世界の主権者、また天にいる悪の霊に対する戦いなのです。（エペソ6:12）

真の弟子たちは、ここでご覧のとおり、戦いは血肉に対するものではないため、非常に警戒を怠ってはなりません。そのため、悪魔とその手先たちは、統一の名の下にキリスト教世界に侵入してきました。そして、陣営の外にいる神の真の弟子たちに対処するため、各宗派、そして宗派を超えた教会や聖職者を団結させようとしています。しかし、悪魔は失敗するでしょう。

彼らは偽使徒、欺く働き人であり、キリストの使徒に変装しているのです。しかし、驚くには当たりません。サタン自身が光の天使に変装しているのですから。ですから、サタンの従者たちが義の従者に変装しても、何ら不思議ではありません。彼らの最後は、それぞれの行いに応じて臨むのです。（コリント人への第一の手紙 11:13-15）

この聖句は誰か、あるいは何らかのグループを指しているわけではありませんが、当時の人々の宗教指導者であったパリサイ人が、イエスが彼らの律法に反する教えを説き、それに反する行いをしていると信じてイエスを十字架につけた、とだけ言っておけば十分でしょう。彼らは、初期の教会において、まだ真理に従っていた多くの弟子たちを迫害し、殺害しました。パウロ兄弟とその仲間たちは、誰も義にかなって歩むことを拒んだ、いわゆる神の僕たちから、激しい迫害を受けました。そして、今日の真の弟子たちにとって、最大の敵は、神の奉仕者と、そうでない信者たちから来るでしょう。

彼らはあなた方に激しく反対するので、あなた方が十分に勇気がなく、また神の言葉の分け方（健全な教理である現在の真理を知ることによって）を知らないなら、あなた方は騙されてしまうでしょう。しかし、もしあなた方が彼らに抵抗するなら、彼らはあなた方の名前を騙る者として投げ捨て、会衆にあなた方から離れるように警告するでしょう。これらすべての特質を備えた真の弟子は、自分の命が神に包まれていること、そして主があなた方に嫉妬し、妊婦が自分の胎内の体を守るようにあなた方を守る以外に選択肢がないことを理解します。そのとき、あなた方について、「私はキリストと共に十字架につけられたが、生きている」と言われるでしょう。しかし、私ではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。私が今肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお与えになった神の子を信じる信仰によって生きているのです。（ガラテヤ2:20）

第5章

真の弟子が捨てるべきもの

キリストのために

愛には代償が必要だと言われていました。なぜなら、イエス・キリストは教会と全世界への愛のために、自らの命を犠牲にされたからです。それは、妻との結婚が実りあるものとなるために、神が初めに人に求めたものと同じです。

それゆえ、人は父母を離れ、妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるのか。

それゆえ、彼らはもはやふたりではなく、一体なのです。ですから、神が結び合わせたものを、人は引き離してはならない。（マタイ19:5-6）

男が妻と一つになるためには父と母から離れなければならないように、妻も結婚が成立した瞬間にそうしなければなりません。結婚がこの基盤の上に築かれていないなら、必ず崩壊します。ですから、夫婦、双方の両親、親族、そして友人でさえも、神が結び合わせたものを壊さないように注意しましょう。

弟子としての生き方は結婚に似ているので、主は従わなければならないさらに厳しい命令を与えました。

だれでもわたしのもとに来るとき、父、母、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも憎まないなら、わたしの弟子となることはできない。（ルカ 14:26）

多くの牧師が「憎む」という言葉を曲げて、「彼らを憎むべきではない、むしろ愛し、エペソ人への手紙6章2-3節に書かれていることを守るべきだ」と言うのを耳にしました。彼らはさらに、「彼らを見捨てるべきではない、むしろ神に従いたいと告げるべきだ」と言います。確かに、神は人間を自由意志を持って創造したので、誰もが自分の意見を持つ権利があります。ですから、誰もが自分の意見を言わないことを神はご存知です。だからこそ「もし」と言われたのです。真の弟子にとって、「憎む」という言葉は、神の言葉に反する彼らの宗教、神の戒めに反する伝統、そして神の義に反して独善的な生活様式を激しく嫌うことを意味します。繰り返しますが、彼らにこのような行動を取らせる先祖や使い魔は、あなたが彼らの支配から逃れた今、あなたを追いかけ、今やあなたの民に対する彼らの支配の継続に大きな危険をもたらすでしょう。あなたたちの分離は善のためであることを心に留めなさい。敵と戦うために立ち上がり、あなたたちの民を解放し、彼らも救われるようにするためです。神の意図は彼らが救われることであり、だからこそあなたたちは神の絆なのです。主はこれが容易なことではないことを知っておられ、こう言われました。

わたしが地上に平和をもたらすために来たと思っはならない。わたしは平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは人をその父と争わせ、娘をその娘と争わせるために来たのだ。

姑は姑である。人の敵は、その家の者である。父や母を私よりも愛する者は、私にふさわしくない。息子や娘を私よりも愛する者も、私にふさわしくない。自分の十字架を負って私に従わない者は、私にふさわしくない。自分の命を得た者はそれを失い、私のために命を失った者は、それを得るであろう。（マタイ10:34-39）

自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を失った者は、それを保つて永遠の命に至るのです。（ヨハネ12:25）

愛は誰かに従うことと同じなので、もしあなたが主よりも自分の父、母、息子、娘、妻に従うなら、あなたは主の弟子である資格がありません。

もしもあなたが感じている自分の体の声に耳を傾け（私の著書『Tabernacles As A Shadow Of Christ』を参照）、主よりもそれに従うなら、あなたは命を失うでしょう。

そしてイエスはすべての人々に言われた。「わたしについて来たいと思う者は、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」（ルカ9:23）

あなたは自分自身を否定し（つまり、自分の意志を完全に捨て去り）、そして日々自分の十字架を背負って主に従う必要があります。十字架とは、主のために経験する愚かさ、弱さ、そして苦しみを意味します。あなたは世の人々にとって愚かなことを行う必要がありますが、そこに神の知恵が宿っているのです。（コリント人への第一の手紙 1:1）

（1:25-29、コリント人への第二の手紙12:9）キリストの力が流れ出るためには、キリストのために弱くならなければなりません。そして、キリストの姿に似せるためには、キリストのために苦しまなければなりません。

よく言うておく。わたしのため、また福音のために、家、兄弟、姉妹、父、母、妻、子供、畑を捨てた者はいない。しかし、その人は今この世で、迫害を受けながらも、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑を百倍も受けるであろう。そして、来るべき世では永遠の命を受けるであろう。

(マルコ10:29-30)

真の弟子は、主のために家、兄弟、姉妹、父、母、妻、子供、土地を捨てなければなりません。そして最後には百倍もの報いを受けるでしょう。しかし、それらの報いが現れるまでは、あなたは迫害を受け続けるでしょう。真の弟子である既婚女性が捨てることができないのは、夫です。なぜなら、妻は夫の弟子だからです。多くの神の人が誤った助言を与え、家族を分裂させてきたのは、この神秘によるものです。もしあなたがこの誤りの犠牲者になっているなら、夫のもとに戻り、許しを請いましょう。そして、すべての戒めに従うことで謙虚になりなさい。

神の命令に従い、神の魔法に身を委ねましょう。さらに詳しくは、私の著書『服従、神の権威の経路、そして神の王国への唯一の道』をご覧ください。

地上に宝を積んではならない。そこでは虫が食い、錆びがつき、盗人が押し入って盗み出す。あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあるからである。体のあかりは目である。だから、もしあなたの目が澄んでいれば、あなたの全身は明るいであろう。人は二人の主人に仕えることはできない。どちらか一方を憎むからである。

一方を愛せよ、さもなければ、一方に固執し、他方を軽蔑するであろう。あなた方は神と富とに仕えることはできない。

(マタイ6:19,21,24)

姦淫する者たちよ、世との交わりは神との敵対であることを知らないのか。だから、世の友となろうとする者は、神の敵である。(ヤコブの手紙4:4)

人々は宝を富だけに限定しますが、それはそれだけではありません。それは非常に価値のある物、物、人を意味します。ですから、教育、仕事、事業、友人、所有物など、すべてを捨てて主に従うべきです。イエスは、「あなたの目は一点に集中しなければならない」と言われました。それは、主と、福音を宣べ伝えるという主の事業にのみ焦点を合わせることを意味します。職業として神に仕えながら、この世で何かをすることはできません。神は嫉妬深い神であり、神への愛を何者とも分かち合うことはできません。私たちの主ご自身も、父なる神の呼びかけに応えるために大工の仕事を捨て、二度とこの世の方向を振り返ることはなかったのではないのでしょうか。聖書のルカによる福音書5章11節には、初期の弟子たちがすべてを捨てて主に従ったと記されています。主はここでこう言われました。「同じように、あなたがたのうちで、自分の持ち物をすべて捨てない者は、わたしの弟子となることはできない。」(ルカ14:33)

これは必須です。これを行わなければ、どのように祈っても、どのように奇跡を起こしても、どのように神の言葉の啓示の知識に従って歩んでも、あなたは神の弟子ではありません。

繰り返しますが、その「捨てる」という言葉は継続的なプロセスであり、

これは、あなたが弟子になるためにすべてを捨てた後、主はその限りない慈悲により、迫害を伴いながらも、百倍も与えてくださるということです。しかし、主はあなたが捨て続け、必要とするすべての人に分配することを期待しておられます。あなたは当面の必要を満たすだけの分を取り、残りを信仰の家族、未亡人、孤児、貧しい人、困っている人などに分配し、富にある罅から逃れるのです。これは弟子としての最も難しい部分の一つで、すべてを捨てることで順調なスタートを切った多くの弟子たちを破滅させてきました。この命令に従わないほど心がかたくなになっている多くの人々は、すぐにパウロ兄弟の聖句を引用して、あなたは働かなければ食べてはいけないと正当化しようとします。中には、自分の家族を養うために働かないのであれば、異教徒（不信者）よりも悪いと言う人もいます。

盗んだ者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするために、自分の手で良いものを造り、働きなさい。（エペソ 4:28）

わたしたちは、あなたがたと一緒にいたときも、働かない者は食べることもしてはならないと命じていました。あなたがたの中には、無秩序に歩き回り、全く働かず、おせっかいな人がいると聞いています。そのような人たちに、わたしたちは主イエス・キリストによって命じ、勧めます。静かに働き、自分のパンを食べるように。（テサロニケ人への手紙 二 3:10-12）

弟子が本当に聖霊に従っているなら、聖霊は彼を安全に導き、これらの箇所正しい解釈を徹底的に与えてくれるでしょう。

私たちの信仰の創始者であり完成者である主イエスの指示は、主が律法学者たちが聖書に書いたこと、それを取り巻く状況を理解させる時まで、守られるべきものです。共観福音書では、真の弟子はすべてを捨てなければならないと主は言われましたが、ここにある手紙では、主の弟子であったパウロは、「働かざる者は食べるな」と言っています。なぜ彼（パウロ）は師であり救い主である主の言葉に反対し、矛盾したのでしょうか。この質問に正しく答えるには、神の言葉は神の意志であるということ覚えておくことが重要です。しかし、神の言葉のすべてが神の完全な意志というわけではありません。なぜなら、神は許容的な意志を持っており、人間の反抗と利己心のために、人間が行うことを許しているからです。そして神には完全な意志があり、それは誰の人生においても神の目的を達成するために、世界の基が置かれる前から定められていました。神は、イスラエルの民が他の民族のようになることを望んだという理由だけで、まだ王を与えるべき時ではなかったにもかかわらず、サウルを選ぶことを許したのではないのでしょうか。同じことがモーセにも当てはまります。イスラエルの民は神ではなくモーセに話しかけ、モーセは死だけが夫婦を分かちあうことができるという神の戒めに反して、妻と離婚して他の者と結婚することを許しました（ローマ7:2-3、マルコ10:11-12）。これもパウロの過ちでしたが、主は当時も、そして今も、同じ動機で主のもとに来る弟子たちのために、それを許しておられます。パウロは主のために大いなる熱意をもって宣教を始め、モーセのように当時の世に対する深い知恵と知識を授かったので、

主が地上にいた時代と季節について研究することによって、それを活用するのです。彼は人間の知恵によってすぐに答えを得ました。西暦30年から西暦70年までは40年、つまり一世代に相当すると計算しました。主がこのたとえ話で意味していたのは、まさにこのことだったのかもしれませんが。

いちじくの木のとえを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が出ると、夏が近いことが分かります。同じように、あなたがたも、これらのことがすべて起こるのを見たら、それが戸口まで近づいていると知りなさい。よく言うておく。これらのことがすべて起こるまでは、この時代は決して過ぎ去らない。（マタイ24:32-34）

パウロはこの引用文を武器に、エルサレムがどのように破壊されるか、反キリストが来て支配すること、そして人の子が最終的にどのように来るかを人々に教え始めました。

多くの人々がすべてを捨てて主に従いました。それは主の弟子になりたかったからではなく、むしろ反キリストの恐ろしい支配から逃れ、主と共に雲の中に引き上げられたからです。聖書の著者である聖霊は後にパウロに、マタイによる福音書24章に書かれているすべてのことが起こる前にパウロが死ぬだけでなく、彼が言及した世代がこの恵みの時代の終わり頃であることを明らかにしました。その時までには、真に弟子となる準備ができていない人々は飢えに苦しみ始め、多くの人々が盗みを働き、ある者はおせっかいになり、家から家へと歩き回って兄弟の陰口を言い、食べ物を得ようとしてしました。パウロはこの混乱の中で、僭越にも彼らにこの命令を与えました。しかし、それは

主からの完全な命令を与えていることを示しています。
ですから、真の弟子として主に従うことができない人々、つまり主以外の
場所で生き残りを求める人々は、この箇所に留意し、パウロがこの民
に命じたように行動しなさい。おせっかいなことで神の言葉を冒瀆する
のではなく、しかし、ここで述べられていることを行うときはいつでも、
あなたは

あなた自身の主を依然として信じ、神の寛容な御心の中にいるならば、
信仰が成長し、肉の腕に頼ることをやめるでしょう。その時、主はあなた
を連れ出し、福音にかかわる事柄によって生きるように導き、あなたを
強めてくださいます（コリント人への第一の手紙 9:11-14、ローマ人へ
の手紙 15:26-27）。いくつかの理由から、本書では主が私に啓示され
たマタイによる福音書 24:32-34の意味について説明しませんが、関心
を持ち、具体的に求める方には個人的に分かち合いたいと思っていま
す。真の弟子は、兄弟姉妹のために命を捧げるために自己愛を捨てなけ
ればなりません。そして、これを効果的に行うには、以下の聖句を守らな
ければなりません。

だれも自分の利益を求めず、それぞれ他人の利益を求めなさい。（コ
リント第一 10:24）

ですから、私たち強い者は、弱い者の弱さを担うべきです。自分の利益
のために、隣人（兄弟）を喜ばせ、その徳を高めなさい。（ローマ
15:1-2）

何事も争いや虚栄からではなく、へりくだった心で互いに相手を自分
より優れた者と考えなさい。おのおの自分のことばかりではなく、他人
のことも考えなさい。（フィリピ2:3-4）

この厳しい要求に応えるには、自分の人生を心から憎まなければなりません。そうでなければ、7年から10年ほどすべてを捨て、苦しみによって肉体が燃えるように焼けつくような苦しみを味わった人に、主が百倍もの恵みを与え始めたらどうなるでしょうか。一方、長年世俗的な生活を楽しんできた人が、たった3ヶ月で改心しただけで、主は「自分の幸福よりも相手の幸福を求めよ」とおっしゃるのです。しかし、まさにこれこそ主があなたがここで行うべきだとおっしゃっていることであり、あなたがそうするなら、天国で大きな報いを受けるでしょう。

そしてあなたは、主の来るべき王国において主の左右に座る特別な人々の一人になれる機会に恵まれるかもしれません。

第6章

真の弟子となることの障害

利点があるものには必ず欠点があり、良い性質があるものには必ず悪い性質があり、同様に、条件があるものには必ず障害があります。

真の弟子となるには三つの大きな障害があり、真の弟子となることを妨げる他のあらゆるものは、これらの大きな障害から生じます。

世を愛してはならず、また世にあるものを愛してもいけません。もし世を愛する者がいれば、父への愛は彼の内にありません。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、生活の誇りは、父から出たものではなく、世から出たものです。世もそれに伴う欲も過ぎ去ります。しかし、神の御心を行う者は、いつまでも生き続けます。（ヨハネ第一 2:15-17）

この引用文を読んで、三つの大きな障害が(a)肉欲、(b)視覚欲、(c)生活への驕りであることに気づくことが重要です。そして、これらから、地上の安楽（高級な食べ物だけを愛する、家具付きの家だけに住まう、高級車に乗るなど）、仕事、事業、教育、男性の伝統などへの愛、そして両親、兄弟姉妹、妻、子供などへの優しい家族の絆への情熱といった他の障害が生まれます。そうすると、あなたが既に到達した高みは、

例えば、首長の称号を放棄する、名誉ある賞を放棄する、宗教団体での役職を放棄するなど、社会から排除することです。これらすべて、そしてさらに多くのことは、この3つのことから生じており、悪魔がアダムとイブを引きずり降ろし、主イエスを誘惑するために使用したものであり、彼（サタン）はそれらを使用して、世界が主イエス様に従うのを阻止しています。

では人間はどのようにして神の栄光から落ちたのか

彼（サタン）は女に言った。「本当に神は、園のどの木からも食べてはならないと言われたのですか。」女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。しかし、園の中央にある木の实については、神は『それを食べてはならない、それに触れてもいけない、死んではいけないから』と言われました。」蛇は女に言った。「あなたがたは決して死ぬことはありません。それを食べると、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知る者となることを神は知っておられるのです。」

女がその木を見ると、それは食べるに良く、目に美しく、賢くなるには望ましい木であったので、その実を取って食べ、また一緒にいた夫にも与えたので、彼も食べた。

すると二人の目が開け、自分たちが裸であったことを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて前掛けを作った。（創世記3:1-7）

サタンは神が人間に食べてはいけないと命じた特定の果物を知らなかったが、彼の巧妙なやり方で神の言葉に疑問を抱き、女性は彼の策略に陥った。

ついに人間を墮落させる。サタンが人間に対して最初に仕掛けたのは、この三つの方法であった。

女が見ると、その木は食べるに良く（肉の欲）、目に美しく（目の欲）、また賢くする（人生の誇り）好ましい木であった。_____

そして、善悪を知る木の実は、人間が決して歩み始めることを望まなかった自己意志です。それゆえ、肉の欲、目の欲、そして人生の誇りのために、人間は墮落させられ、サタンの支配下に置かれました。そして、人間がこれら三つのいずれかに陥るたびに、霊的に裸（罪）になります。最初の間が墮落して以来、人類の救い主である主イエスが来られるまで、サタンの苦難を乗り越えてサタンに打ち勝つことができた人間は一人もいませんでした。サタンは、主が荒野で激しい試練を通過するのを待ち、ほとんど抗しがたい申し出で主を誘惑しようとしていました。しかし、父なる神の御心で満たされた主は、荒野で自らの御心を打ち砕いた後、悪魔に爆弾を投げつけることに時間を浪費することなく、悪魔はしばらくの間主のもとを去りました。主は40日間断食され、ひどく空腹だった時、悪魔はこう言いました。

(1) ~~肉の欲望~~、悪魔はイエスに言った。「もしあなたが神の子なら、この石にパンになるように命じなさい。」（ルカ4:3）悪魔はイエスが神の子であることを知っていたが、肉の感情の声に耳を傾け、イエスが自分の意志で行動することを望んでいた。しかしイエスは、「こう書いてある」という言葉でこの誘惑をかわした。

人はパンだけで生きるのではなく、神のすべての言葉によって生きるので
す。(4節)

- (2) 目の欲望 : 悪魔はイエスを高い山に連れて行き、一瞬のうちにこの世のすべての
国々を見せた。そして悪魔は言った。「これらのすべての権威と栄光をあ
なたにあげよう。それは私に任されている。私が望む者に、だれにでも与え
よう。だから、もしあなたが私を拜むなら、すべてはあなたのものとなる。」
(5-7節)

サタンは崇拜を強く望み、目の欲望を通して、人間が自分の知らない
ものを崇拜するように仕向けました。なぜでしょうか？人間は、目
に見えるもの、そして自分の神と呼べるものを強く望むからです。サタンは、
人間から奪ったこの世の王国をイエスに見せることで、イエスを同じ欲望
に陥れようとした。しかし、イエスを創造した主は反撃しました。

するとイエスは答えて言われた、「サタンよ、引き下がれ。『主な
あなたの神を拜み、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」

(8節)。

- (3) 人生の誇り : そして彼は彼をエルサレムに連れて行き、神殿の頂上に立た
せて言った、「もしあなたが神の子なら、ここから身を投げなさい。『神は
あなたのために御使いたちに命じてあなたを守らせるであろう。
彼らはあなたを両手で支え、あなたが足を石に打ち付けな
いようにするであろう』と書いてある。(9-11節)これはサタンが世界をひ
どく攻撃しただけでなく、

つまり、キリスト教世界です。これは神の言葉への直接的な攻撃です。なぜなら、彼は神の言葉を加減して誤って引用しただけでなく（正しい引用は詩篇91章11-12節です）、神の言葉そのものを引用することで、神の内に傲慢さを植え付け、神に逆らうように仕向けたからです。

イエスは答えて言われた、「あなたは
主なるあなたの神を試してはならない。（12節）

主は悪魔に同意したり、論じたりする必要はありませんでした。なぜなら、主は従うべき教えは父なる神以外の何者からも来るものではないことを知っていたからです。もし悪魔や人々が、あなたの生き方やその他の良い実を通してあなたが誰であるかを信じられないなら、あなたが神に遣わされたことを証明するために、神があなたに求めていることを行って神を誘惑してはいけません。もしそうしようとすれば、あなたは傲慢になっているので失敗するでしょう。しかし、もし成功すれば、神は栄光を与えられず、あなたは最終的に倒されるでしょう。主イエスがこれらの誘惑に打ち勝った秘訣は、主が父なる神の御心で満たされ、他のいかなる御心にも、たとえそれがどれほど良いように見えても、決して譲歩しなかったことにあります。また、荒野で受けた教えに反する考えが心に浮かんだとしても、一瞬たりとも瞑想することを拒まれました。もし主の足跡に従うことができれば、必ず最後までたどり着くことができます。なぜなら、この三つの主要な道を通してでなければ、いかなる誘惑も誰にも来ないからです。どうしてそう言えるのでしょうか？

答えはまたこうです:-そして悪魔はすべての誘惑を終えると、しばらくの間彼から離れました。

(ルカ4:13)

ルカ兄弟はこれらすべてを誘惑と呼びました。なぜなら、サタンが人間にもたらす誘惑は、必ずこれらの方法のいずれかを通してもたらされるからです。多くの人が滅ぼされ、欺瞞の道を歩むように仕向けられました。なぜなら、彼らは悪魔と論じ合うからです。特に、悪魔が神の言葉を引用して彼らに様々な考えを抱かせたり、この世の体制に縛られ、真理に対して心が鈍くなっている宗教的信者を利用したりした時、彼らはそうします。そして、あなたがそうした空想を捨て去り、考えをキリストへの従順へと導き、羊の皮をかぶった狼どもがあなたの人生における神の働きを疑うのを止めようとしなければ、あなたは傲慢と不必要な情欲に陥るでしょう。そして、あなたが気づく前に、悪魔はあなたを滅ぼすでしょう。この三つの主要な障害をいくつかの部分に分ける際に重要なのは、主に従うことを決意した弟子は皆、悪魔が送り込む多くの声によって引き返す機会を与えられるということです。しかし、もしあなたがそれを拒むなら、悪魔はあなたと戦いを挑むでしょう。

彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「主よ、あなたが行かれる所ならどこへでも従います。」イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子には枕する所がない。」彼はまた別の人に言った。「わたしに従いなさい。」すると彼は言った。「主よ、まず父を葬りに行かせてください。」イエスは言われた。「死人に葬らせなさい。」

彼らの死を悼むのではなく、あなたは行って神の王国を宣べ伝えなさい。
また別の者も言った。「主よ、従ってまいります。しかし、まず家にいる人たちに別
れを告げに行かせてください。」するとイエスは言われた。「鋤に手をかけてから
後ろを振り返る者は、神の国にふさわしくありません。」(ルカ9:57-62)

この最初の弟子は、主がどこへでもついて行けると感じていました。なぜそう感じ
たのでしょうか。彼は主が五つのパンと二匹の魚だけで五千人の人々に食事を与
えるなど、偉大な奇跡を行われるのを目の当たりにしてきました。そして、もしこの
人がこの群衆に食事を与えることができるなら、主（イエス）と共に暮らすこと
は、自分にとって最高の出来事になるだろうと心の中で想像したのです。彼は主は
きっと大金持ちで、豪華な家に住んでおられ、主に仕える者には何も不足すること
はないと信じていました。真の弟子となるための条件を問うこともせず、それゆえ、
どんな代償が伴うかなど気にも留めませんでした。彼は、何の代償も払うことな
く大勢の人々に食事を与えることができる、一見裕福そうな人と共に暮らしたい
と思っていたので、背負うべき十字架などないと考えていたのです。しかし、彼は
全くの間違いでした。主イエスが「私は今、家を失いました。他の生き物のように、
定住する場所を持つつもりもありません」と言われた瞬間、その弟子は去っていっ
たのです。ですから、主の真の弟子になりたいのであれば、永住の地を持つことは
忘れてください。主があなたを動かし始めるときに、永住の地は大きな障害となる
からです。(参照 11:1)

(コリント人への第一の手紙4:11)ここでの第二と第三の弟子たちはむしろ非常
に利己的で、彼らの欲望が

主は二番目の弟子に従順に従うよう求めましたが、彼にとって即座の従順よりも重要なことがありました。彼は主に従うことを完全に拒否したわけではありませんが、その返答は間接的な拒否でした。なぜなら、主は先延ばしをする暇などないからです。主はその返答の中で明確に、「死者は死者を葬りなさい。あなたは行って神の国を宣べ伝えなさい」と言われました。彼は神と共に働くことよりも人間の言い伝えに関心があったので、主からその答えを得ると立ち去りました。ここでの第一の教訓は、神は弟子たちに戒めを破らせる人間の言い伝えに時間を割いてくれないということです（マタイ15:2-3参照）。第二の教訓は、真の主の弟子は、血縁関係の有無にかかわらず、主から死者を蘇らせるようにという具体的な指示がない限り、不信者の葬儀に参列しないということです（レビ10:1-7参照）。主ご自身と初期の使徒たちは、必要な場合（主から参列するようにとの指示があった場合）に死者を蘇らせる以外は、未信者の友人や親族の埋葬には立ち会いませんでした。3番目の弟子も利己的でしたが、彼の利己心は家族の絆、つまり愛着にかかっていました。彼は家族に深く愛着を持っていたため、主の呼びかけに応じる前に彼らの承認が必要でした。主に従うと決心した時に最大の敵となる家族（マタイ10:36）が、どうしてあなたの決断を承認できるでしょうか。しかし、家族に縛られ、家族への愛と主への信仰を妥協することを好む弟子志願者の中には、すぐにこう言うでしょう。

問題ではありません。結局のところ、彼らは私の民が私の信仰を止めたり決定したりすることはできないと言います。確かにそうかもしれませんが、しかし、あなたと彼らの使い魔によって引き起こされる肉の感情は、あなたを彼らへの同情ではなく同情へと導き、神に背くこととなります。そして、この弟子は家族への愛着から離れることができなかつたため、去ってしまいました。ですから、家族の絆や愛着は真の弟子としての歩みを妨げるもう一つの障害です。だからこそ、イエスは母マリアと兄弟たちを神へと導き続けました。彼らは神の御心から離れており、イエスに父の御心を離れて自分たちに耳を傾けて欲しいと願っていたからです（マタイ 12:46-50）。

つかさたちは民に告げて言わなければならない。「新しい家を建てて、まだ奉献していない者はいるか。彼は帰って自分の家に帰れ。そうしないと、戦いで死んで、他の人がそれを奉献することになるからである。ぶどう畑を作って、まだその実を食べていない者はいるか。彼は帰って自分の家に帰れ。そうしないと、戦いで死んで、他の人がそれを食べることになるからである。また、婚約して、まだ妻を迎えていない者はいるか。彼は帰って自分の家に帰れ。そうしないと、戦いで死んで、他の人がそれを食べることになるからである。」（申命記 20:5-7）

ある人が盛大な晩餐を催し、大勢の人々に招きました。そして晩餐の時間に召使いを遣わし、招かれた弟子たちに「さあ、すべて準備ができましたから、おいでください」と告げさせました。すると彼らは皆、口を揃えて言い始めました。最初の者は彼に言いました。「土地を買ったので、どうしても見に行かなければなりません。どうかお許しください。」

ほかの者は言った。「牛を五くびき買いましたので、試しに行きます。どうかお許してください。」また別の者は言った。「妻をめとりましたので、行けません。」（ルカ14:16-20）

私は律法と恵みからこの二つの箇所を引用して、二重参照の原則と、この弟子たちが挙げた三つの理由が、いかに人々が主に従うことを妨げてきたかを示しました。申命記とルカの福音書はどちらも同じことを言っています。最初の弟子にとっての障害は財産でした。彼は主に従うために財産を手放すことができませんでした。二人目の弟子は、退職金や毎月の年金を受け取ったり、事業で十分な利益を得たり、卒業して資格を取得したりしたかったため、仕事や事業、教育などを失うことができませんでした。三人目の弟子は新しい妻なしでは生きていけませんでした。彼は主の呼びかけに応じるよりも、妻を大事に養い、妻と暮らしたいと思っていました。そして主はこの三人を迂回し、ほとんど何も手放すものがない者たちを召されました。

もう一つの大きな障害は富です:-

イエスは再び答えて言われた。「子たちよ、富を頼みとする者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通る方がもっと易しい。」（マルコ 10:24-25）

しかし、富もうとする者たちは、誘惑と罠、また多くの愚かで有害な情欲に陥ります。そして、それらは人を滅びと破滅に陥れます。（テモテ第一 6:9）

これらの聖句を守ることは非常に重要です。なぜなら、サタンは信者を欺くために「繁栄」という言葉を使って富を隠そうとしているからです。繁栄とは、あらゆる面で成功することを意味します。しかし、主は以前から、神の国と神の義を第一に求めるなら、あなたの魂は繁栄し、健康を保ち、経済的にも物質的にも豊かになると明言しておられます。しかし、裕福な弟子となるほどではありません。もしあなたが裕福になれば、誘惑と罠に陥り、信仰から迷い出してしまうでしょう。信仰の家族、つまり未亡人、孤児、貧しい人、困っている人などに分け与えて自らを救い、天に宝を蓄えなければ、信仰から迷い出してしまうでしょう。私が本書で記した最後の、しかし決して軽視できない障害は、次のとおりです。

しかしながら、指導者たちの中にもイエスを信じた者が多かった。しかし、パリサイ人たちのせいで、彼らはイエスを告白しなかった。会堂から追い出されるのを恐れたからである。彼らは神の誉れよりも、人の誉れを愛していたのである。
(ヨハネ12:42-43)

これは、各宗派で高い地位を占める信者たちの集団ですが、宗派から追放され、その結果地位を失うことを恐れて、主の真の弟子として主に従うことを拒否しました。これは、主の呼びかけに応じるはずだった多くの人々にも当てはまりますが、彼らは協会とキリスト教世界の両方で地位を失うことを恐れて、神に従うことを拒否しました。

真の弟子となることへの障害を目の当たりにした私は、

主が弟子としての生活に召された人、あるいは召されている人は
皆、障害を避けて主に従うべきです。

第7章

真の弟子の反応

結婚

主イエス・キリストの真の弟子になろうとする多くの人々は、すぐにこう尋ねるでしょう。「弟子が主に従う前にこれらすべての条件を満たさなければならぬとしても、それでも結婚するのでしょうか？どうすれば結婚生活を楽しみながら神に従うことができるのでしょうか？それとも、結婚のことを忘れて、女性に燃え上がり、情欲を抱き続けるのでしょうか？」人々が誤った方向に導かれないように、この問いには慎重かつ徹底的な答えが必要です。

結婚はすべての人にとって尊いものであり、寝床は汚れのないものである。

(ヘブライ13:4)

パウロ兄弟は結婚していませんでしたが、神は彼を結婚についての深い知識へと導きました。そして、結婚という制度について綿密に研究した後、聖霊の導きによって、「結婚はすべての人にとって尊いものである」という結論に達しました。なぜ結婚に関するすべてのことが尊いのでしょうか。

(a) それは、人類が地球を満たし、それを従わせ、こうして地球上のすべてのものを支配するための生殖の手段として定められた。

そして神は祝福し、彼らに言われた、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」

それを従わせ、海の魚と、空の鳥と、地の上を這うすべてのものを支配せよ。（創世記 1:28）

(b)神は人間に孤独を与えることで、人間の孤独を終わらせたかったのです。神の目的を達成するのを助ける仲間。主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。わたしは彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。」（創世記 2:18）

(c)それは、神が敬虔な子孫（神の真の子ら）を授け、彼らが第二の天の底からサタンを追い落とすために制定されたのです。しかし、あなた方は「なぜですか？」と言います。
主は、あなたとあなたの若い時の妻との間に証人として立てられた。あなたは彼女を裏切った。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻である。主は妻を作らなかったのか。それでも、彼には心の残りがあった。

では、なぜそうするのか？それは、敬虔な子孫を求めるためである。——
それゆえ、自分の心に注意し、若い時の妻に対して不誠実な行為をしてはならない。（マラキ2:14-15）

- (d) 結婚は、男性が
この世に不道德はない。 男が女に触
れないのは良いことです。しかし、姦淫を避けるために、すべての
の男は自分の妻を持ち、すべての女は自分の夫を持ちなさい。
（コリント人への第一の手紙 7:1-2）
- (e) これは神が教会に定められた偉大な奥義であり、教会がキリスト
（夫）との関係を理解できるようにするために設けられました。自
分の肉を憎んだ者はかつて一人もいません。むしろ、主が教会を
愛されたように、人はそれを養い、慈しみます。私たちは神の体、肉、
骨の一部なのです。それゆえ、人は父母を離れ、妻と結ばれ、ふたり
は一体となるのです。これは偉大な奥義です。しかし、私はキリスト
と教会について語っています。（エペソ5:29-32）

聖霊がパウロ兄弟を通して、結婚はすべての人にとって尊いもので
あると告げたため、結婚適齢期に達した地上のすべての人々、主の
弟子たちも含め、結婚へと突き進んでいます。また、非常に多くの
人々が、神を結婚生活から遠ざけようと決めています。しかし、神へ
の扉を閉ざすと、悪魔が窓から入り込んでくることを知らないの
です。神は、人間への憐れみから、その孤独を終わらせるために、以前
から恵みと真理の原則に基づいて行動することを決意しておられ
ました。そして人間は、瞬く間に、主が行った最初の超自然的な手術
の果実を刈り取りました。それは、自らがその恩恵を受けるに値し
ないものでした。

そして主なる神はアダムに深い眠りを与えられた。アダムは
眠った。そして主なる神は彼の肋骨の一つを取り、

主なる神は人から取った肋骨で女を造り、人のところに連れて来た。アダムは言った。「これこそ今やわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。彼女は人から取られたので、女と呼ばれるであろう。」(創世記 2:21-23)

アダムは眠りから目覚め、傍らに美しい伴侶がいるのを見て、喜びのあまり主にその女性について尋ねることも、主の愛に感謝することはありませんでした。むしろ、彼はその女性に飛びつき、妻としました。しかし、悪魔が女性を欺き、アダムに罪を犯させた時、神がアダムに問いただした時、アダムは何と言ったでしょうか。

すると人は言った。「あなたが私と一緒にいるようにして下さった女が、その木から取って私に与えたので、私は食べました。」(創世記3:12)

アダムは自分の罪を認めて悔い改める代わりに、自分を正当化し始め、女性を与えた神を責めました。これは神が憐れみの心から人間に行ったことの一つであり、神はそれを悔いられました。神は振り返って人間にこう言われたのです。

妻を得る者は良いものを得る、また主の恵みを得る。(箴言 18:22)

常に自分の自由意志で行動することを好む男は、妻を探すためという名目で、あらゆる女性に突撃し始めた。

しかし、私は尋ねたいのです。神は、誰が見つけるとしても、いったい誰が自分にぴったりの、あるいは完璧な肋骨を見つけることができるのか、と。

妻を見つけるということは、結婚に必要なことをした後で、どんな女性とも一緒に暮らすことを意味するのではなく、

それは、あの大切な失われた肋骨を見つけることです。それは、私たちがかつて霊においてキリストの体に戻ったように、あの穴にまだ収まるでしょう。そして、失われた肋骨を見つけなければ、主の恵みを受けることはできません。

失った肋骨をどうやって見つけるか？

完璧な肋骨を見つけるには、神に頼らなければなりません。どんな心霊術師やオカルト信者に頼っても解決できません。

彼らはあなたに本当の夫や妻を与えることができません。彼らにはそれができないからです。そして、彼らを通して働く霊たちは結婚に反対しています。なぜでしょうか？それは、完全な結婚による結びつきだけがサタンとその手先を打ち倒すことができるからです。そして、サタンは彼ら（夫と妻）が決して結びつくことを望んでいません。

しかし、まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられるであろう。（マタイ6:33）

あなたに与えられるこれらのすべてのものの中に、結婚は含まれるのでしょうか？はい、結婚は含まれます。主があなたを宦官として召されていない限り、含まれます。あなたが神の御国と神の義を第一に求め、自分の人生を主の御手に委ねるなら、神は恵みと真理の原則に基づいて行動し、あなたと同じように主への熱意、信仰、愛、そして従順さを持つ、ふさわしい伴侶を見つけるよう導いてくださいます。聖書が述べているすべてのことにもかかわらず、結婚が神の御心であることを証明するために、たとえこの競争に身を置く主の弟子たちにとってであっても、すべての人にとって結婚が必須というわけではありません。

なぜでしょうか？主イエスの弟子は、

神と共に働くときに気を散らさないようにするためだけにそれを放棄します。
主はまた、ただ御自身と共に働くという目的のためだけに、胎内から人を宦官にすることができます。しかし、主人によって宦官にされた人々もいます。

母の胎内から去勢された者もいれば、人から去勢された者もあり、また、天の御国のために自ら去勢した者もいる。受けられる者は受けなさい。（マタイ19:12）

この箇所には三人の宦官が言及されていますが、主と関係があるのは二者だけです。もう一人は、関係する人々への束縛であり、清純さを許しません。弟子が御国のために宦官となるには、主への奉仕に完全に身を捧げたいという内なる願いを持ち、その奉仕に夫婦としての責任を負わせてはなりません。そしてそのためには、節制のためのさらなる恵みを求めなければなりません。しかし、それでもなお節制できないなら、それは神が彼に結婚を望んでいるという兆候です。

だから私は未婚者と未亡人に言います。

もし彼らが私と同じようにとどまるなら、彼らは結婚するでしょう。しかし、もし彼らが我慢できないなら、結婚するべきです。燃え尽きるよりは結婚するほうがよいからです。（コリント人への第一の手紙7:8-9）

パウロ兄弟は主の靈感によって、女性に欲情する代わりに、抑えきれない宦官志願者は結婚して、

純潔。しかし、母親の胎内から宦官として生まれた人々は、神ご自身が宦官とされた人々であり、結婚生活に惑わされることなく、神と共に働くことができるようにされたのです。いずれにせよ、宦官として召された人々は、弟子となる前から既にその神聖な確信を持ち、胎内から宦官となる恵みを受けているため、女性に情欲を抱くことはありません。自発的に宦官となることは神の神聖なる御心に完全に反するものであり、そのような場合、純潔はほとんど保たれません。

御霊は明らかに告げて言います。「終わりの時には、ある人々が信仰から離れ、惑わす霊と悪魔の教えとに心を留め、偽善的に偽りを語り、良心を焼けた鉄で焼かれ、結婚を禁じ、食物を断つように命じます。神は、信仰を持ち真理を知る者たちが感謝して受けるように創造されたのです。」（テモテ第一 4:1-3）

主はパウロ兄弟を通して、結婚を禁じ、人々に食物を断つよう命じる者たちは信仰から離れ、悪魔の教えに従っている者たちであることを明らかにされました。さらに、彼らは良心を焼けた鉄で焼き付けている、と主は言われました。

これは、結婚が法律で禁じられており、純潔を保ちたい人が自発的に誓うものではない場合には、不道徳が蔓延することを証明しています。

しかし、宦官ではない真の弟子は、神の原則に従って、いかなる理由であっても結婚すべきではありません。

真の弟子はどこから来るべきか

結婚？

弟子となるには神との契約を結ばなければならないことを見ましたが、同様に結婚も人生の契約とみなされるべきです。神と契約を結んでいる人は、神との契約関係にない人とは結婚しても実りある結婚はできません。なぜでしょうか？それは、二つの対立する立場の二人と、同時に契約関係を結ぶことは、その契約の条項を破ることなくは不可能だからです。これは明白です。なぜなら、神は、一度契約を結んだご自分の民が、不信心な者と別の契約関係を結ぶことをお許しにならないからです。

あなたはほかの神を拝んではならない。主はねたむ神である。その名が「ねたむ」であるように。（出エジプト記 34:14）
神がイスラエルの民（教会の型）と契約関係を結ぼうとしたとき、神は契約におけるご自身の立場を守るために、彼らに要求されるすべてのことを告げられました。そこには結婚も含まれていました。主はこう言われました。

彼らと契約を結んではならない。彼らに慈悲を施してはならない。また、婚姻をしてはならない。あなたの娘を彼の息子に与えてはならない。また、彼の娘をあなたの息子にめとってはならない。彼らはあなたの息子を私に従うことから引き離し、他の神々に仕えるようになるからである。その時、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、あなたを突然滅ぼすであろう。（申命記7:2-4）

それゆえ、あなたがたは主であるあなたがたの神を愛するように、よく気をつけなさい。もしあなたがたが少しでも退いて、これらの国々の残りの者、すなわちあなたがたの中に残っている者たちに付き従い、彼らと結婚し、彼らのもとに入り、彼らもあなたがたのところに来るようなことがあれば、あなたがたの神である主は、これらの国々をあなたがたの前から決して追い払われないことを、よく知りなさい。彼らはあなたがたにとって罾となり、わなとなり、あなたがたのわき腹には鞭となり、あなたがたの目にはとげとなり、ついにあなたがたは、あなたがたの神である主があなたがたに与えられたこの良い地から滅びるであろう。（ヨシヤ記 23:11-13）

主は、教会の象徴であるイスラエルに対し、異教徒（不信者）と結婚してはならないと警告しておられました。そうすることは、主と彼らとの契約を破ることとなるからです。そして、異教徒たちはイスラエル人（信者）の心を主への従順からそらし、イスラエルの民は他の神々に仕えるようになります。主はさらに、異教徒（不信者）はイスラエルの民（信者）にとってわな、罾、わき腹の鞭、目の棘となり、ついには信仰を失ってしまう、と言われました。弟子たちはどうかこのことに留意してください。なぜなら、愛と呼ぶ情欲から、神のこの戒めに背いたために、信仰を失った人が多くいるからです。「結婚したら、改宗させてあげよう」と言う人も多くいます。それは嘘です。誰も改心させることはできません。なぜなら、これは聖霊の働きだからです。そして、この競争は誰でも参加できるものであるのと同様に、救いは神からの賜物であることを忘れてはなりません。神によって王として油を注がれ、偉大な賜物を与えられたソロモンは、

知恵と知識に恵まれ、多くの富に恵まれ、愛という名のもとに割礼を受けていない者の娘たちと結ばれ、道に迷いました。もし神が父ダビデに憐れみをかけていなかったら、彼は地獄に落ちていたでしょう。(列王記上 11:1-11)これは信者にも当てはまります。なぜなら、神は信者が未信者と結婚することを望んでいないからです。しかし、弟子として登録する前に結婚した人がいれば、その人は妻を離縁してはいけません。真の弟子は、宿営にいる信者と結婚する必要はありません。なぜでしょうか。それは、彼ら(宿営にいる信者)がまだ神との契約関係にないからです。神と契約を結んでいる人々は宿営の外にいます。彼らは主に体を捧げることで、契約の自分の部分を守っています。結婚において神の原則に従いたいと願う真の弟子は、アブラハムがイサクの妻を見つけるために自分の僕を遣わした例を見てください。

アブラハムは、家のすべての財産を管理していた年長の僕に言った。「どうか、あなたの手を私のももの下に入れてください。『私は、天の神、地の神、主に掛けて誓わせます。あなたは、私が住んでいるカナン人(不信者)の娘たちから私の息子を妻に迎えてはなりません。しかし、私の国(教会、あるいは信者たちの象徴)と私の親族(陣営から離れ、主と契約を結んでいる人々の象徴)へ行き、私の息子イサクに妻を迎えなければなりません。』(創世記 24:2-4)

ここで父なる神を代表しているアブラハムは、彼が所有するすべてのものを管理する彼の僕(人間の中の聖霊)を

息子に妻を見つけなさい。アブラハムは恵みと真理の原則に従って行動し、息子に完璧な肋骨を与えました。そして、真の弟子として私たちが人生を神の御手に完全に委ねるなら、父なる神はまさにこれと同じことをしてくださるでしょう。私たちの内に宿る聖霊は、私たちが分断された器の中から、神と契約関係にあり、真の弟子として生きる、ふさわしい肋骨を見つけられるように導いてくださいます。そして結婚は祝福され、こうしてこの聖句は成就するのです。

二人は一人よりも優れている。なぜなら、その労働に対して良い報酬を得るからだ。もし二人が倒れたなら、一人は仲間を助け起こすだろう。しかし、倒れた時に一人である者は悲惨である。助け起こす者がいないからだ。また、二人が嘘をつく（待つ）なら、一緒にいれば、彼らは暖まる。しかし、一人でどうして暖まることができようか。また、一人（悪魔）が夫に勝っても、二人（夫と妻）が彼（悪魔）に抵抗する。そして、三つの絆（夫と妻と神との三者の契約）（愛）は容易には切れない。

（伝道の書 4:9-12）

第8章

王位継承資格

キリスト教世界の人々は皆、キリスト・イエスの再臨を待ち望んでいると信じています。そして、反キリストの恐ろしい支配の前に、自分が連れ去られると信じています。そして、来るべき王国において、イエス・キリストと共に王座に就き、統治すると信じています。

しかし、信者を自称する人々の大多数は、王座に就く資格を得るために満たすべき条件について尋ねたり、関心を示したりしません。条件を知りたいと思う人々は、聞かされるとすぐに、「これは今の私たちのものではなく、初期の弟子たちのものであり、聖書を通して何を示しても納得できない」と言うでしょう。条件を見て人生の快樂を拒み、この支配者集団に加わることを決意する少数の残りの人々は、欺瞞者、反キリストの追随者と呼ばれるでしょう。パウロ兄弟はこのことを深く研究し、テモテに次のように訓戒しました。

また、人が支配権（権力）を求めるとしても、法に則って（つまり神の言葉に従って）努力しない限り、栄冠を得ることはできません。（II テモテ 2:5）

この聖句は、もし誰かが王座に就いて統治しようと努めるなら、自分が求めているものの条件を知るために聖典を調べなさいと信者たちに警告する指針です。興味深いことに、誰もが

自分の国を統治する機会を与えられる。
しかしながら、誰もが競争に参加できるわけではありませんし、参加できるとしても、全員が支配できるわけではありません。この王国がそうであるように、来たるべき王国もそうです。競争は、走りたいと望む者すべてに開かれています。誰もが競争に参加できるわけではありません。また、競争に参加できる人の中でも、最終的に最後まで到達して支配者となる資格を得るわけではありません。ですから、王座に就く資格を得るには、この現世で活動している悪魔とその組織に打ち勝たなければなりません。これは非常に困難な条件であり、だからこそ聖書は、それを達成する集団についてこう言っているのです。

そして彼ら（勝利者たち、あるいは男の子たちの集団）は小羊の血と自分たちの証言の言葉によって彼（サタン）に打ち勝ち、死に至るまで自分の命を惜しかなかった。（黙示録 12:11）

多くの人が、この箇所は悪魔とその手先と戦ったミカエルとその天使たちについて語っており、男の子はイエスについて語っていると主張してきました。彼らは、その主張を正当化するために、ダケス聖書にあるその箇所についての解釈を引用することさえしました。しかし、ダケスは聖霊ではなく、これからも聖霊にはならないでしょう。ヨハネがこの幻を見た時、イエス・キリストはすでに死に、復活し、天に昇り、栄光を受けていました。ヨハネを玉座に連れて行き、これらのことを見せたのは、まさにイエス・キリストでした。天使たちは、創造されて以来栄光の中で生きてきたため、証言の言葉を持っていません。そして、小羊の血は、

かつての栄光を失った被造物の贖いのために定められたものです。そして、これらの天使たちは人間のように肉体的に死ぬことはできません。証しの言葉は、彼らがイエスのように、この世で機能しているサタンとその体制を拒絶したことを示しています。そして、このため、サタンは彼らをこの世にいる間に打ち砕き、信仰を失わせようと誓いましたが、決して成功しませんでした。イエスは悪魔とそのあらゆる申し出を拒絶しました。仕事、教育、富、名声、王位、食物、あらゆるもの。そして、弟子たちとユダと共に、契約の血の代わりに用いられたぶどう酒に手を浸した時、ユダはイエスを裏切るために出て行きました。悪魔が自分を訴えるような罪を自分には負っていないことを知っていたイエスは、こう言われました。

今後、わたしはあなたがたに多くを語るつもりはありません。この世の君が来るからです。そして、わたしには何もいません。（ヨハネ14:30）
サタンはイエスの中に何も見つけることができませんでした。なぜなら、イエスは悪魔がこの世にもたらしたシステムの一部ではなかったからです。そして、サタンからのあらゆる申し出をイエスは明確に拒絶しました。実際、イエスは罪のない方でした。主が私たちの兄弟ヨハネに、勝利者たちについて黙示録にこう記すように命じたのも不思議ではありません。

そして、この歌を学ぶことができたのは、地上から贖われた十四万四千人だけであった。彼らは女に汚されなかった者たち（悪魔によって設立され、全地を支配している宗教制度）である。彼らは処女である。彼らは小羊（御霊によって表される）が行く所ならどこへでも従う者たちである。彼らは人々の中から贖われた者たちであり、

神と小羊との初穂である。彼らの口には偽りがなく、神の御座の前では傷のない者である。（黙示録 14:1-5）

彼らは主のように、悪魔とその組織、そしてあらゆる誘惑を拒絶し、この地上で火の中をくぐり抜け、自らの血によって大きな代償を払った者たちです。そして実際、悪魔は彼らの中に何も見つけることができませんでした。なぜなら、彼らはこの世のいかなる宗教団体にも身を汚さなかったからです。彼らは仕事、事業、教育、富、食料、名声、支配権などといったサタンの誘惑を拒絶し、キリストと共に苦しみ、キリストと共に支配するために代償を払うことを選びました。

パウロ兄弟は、主と共に奉仕していたころ、王位に就く資格についての真理を知ったとき、テモテと教会に次のように語りました。

ですから、あなたはイエス・キリストの良い兵士として、苦難に耐えなさい。戦う者はこの世のことに煩わされてはいけません。そうすることで、自分を兵士として選んでくださった方を喜ばせることができるのです。（テモテへの手紙二 2:3-4）

来たるべき御国で王座を争う者たちは、この箇所に留意すべきです。なぜなら、勝利者はキリストの兵士だからです。弟子としての生活を通して兵士として登録されたなら、主は、あなたを兵士として選んだ主を喜ばせるために、この世に関係するいかなる仕事（教育、仕事、ビジネス、支配権など）にも関わらないようにと期待しておられます。キリストの兵士として登録された後も、この世の日々の仕事に巻き込まれるなら、あなたは主とその御心（神の御心）を妨害していることをはっきりと自覚してください。

王国よ、主はあなたを召し、サタンとこの王国を打倒する者たちの一員となるようお召しになりました。兵士としてのあなたの唯一の務めは、主の来るべき王国の福音をいかに広めるかです。そして、必要に応じて、あなたに衣食住を与えるのは主の務めです。これは非常に困難な条件ですが、主が求めておられることです。私はこの真理の生き証人です。仕事を辞め、3年半にわたり真の弟子としての訓練を受けました。

訓練の後、私は真の弟子として2年間主に従い続け、次に何をすべきかの指示を待ちました。そしてパウロのように、パウロの手紙にある「手を使って働くこと」を根拠に、自らを正当化し、手を使って仕事を始めました。順調でしたが、同時に発作も起こっていました。神の御心にかなっていたからです。10ヶ月後、神は私に憐れみをかけてくださいました。

主は私を再び導き出し、真の弟子として生き続け、克服できるようにしてくださいました。また、決して後戻りしないように警告し、パウロが書いたことと、なぜそれを書いたのかという真の解釈を与えてくださいました。

この教会時代に勝利者となることを目指す人々の利益のために、聖霊の導きによって、ヨハネの黙示録第2章と第3章に記されている、使徒ヨハネによる教会への啓示について説明させてください。この二つの章は特に教会に宛てられたものです。それぞれの教会時代において、主イエスは真理を持つ牧師を立てられますが、主要なメッセージを持つ牧師が一人だけおり、他の牧師は皆、この教会に与えられた啓示に沿って説教するのです。

その教会の天使と呼ばれる使者。
この使者が受けているものと合致しないものを受け取る者は、欺かれています。また、使者と他の真の奉仕者たちには、見分けられる特定の特徴があり、聖霊は彼らを通してそれを現されます。

まずはエフェソスにおける最初の教会時代から始めましょう:-

エペソの教会の御使い（使者）に書き送れ。「七つの星を右の手に持ち、七つの金の燭台の間を歩く者が、次のように言われる。
『しかし、わたしはあなたに対して少し責めることがある。あなたは初めの愛を捨ててしまったからだ。だから、あなたはどこから墮落したのかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしあなたが悔い改めないなら、わたしはすぐにあなたのところに来て、あなたの燭台をその場所から取り去ろう。』（黙示録 2:1-5)

エフェソスは望ましいという意味を持ちます。つまり、彼らは真理を渴望しながらも、同時に最初の愛（主を待ち望むこと）に安らぎを見出そうとしていたのです。それゆえ、主イエスは当時の教会の使者を通して、「右手に七つの星を持ち、七つの金の燭台の間を歩く者」としてご自身を現されました。これは、主がすべての牧師たちをしっかりと支え、彼らを通してご自身の完全な権威と力を現し、それによって彼らが全教会を行き来し、ニコライ派の行い（世俗と妥協させることで信徒を転覆させること）が教会において許されないようにしたことを意味します。

教会。2-3節で使徒が弟子たちを称賛した後、4-5節で伝えたメッセージは、彼らが最初の愛を捨ててしまったということです。彼らの最初の愛とは、主の御前に留まり、主を待ち望み、主の言葉を聞き、それを実行し、世との妥協を拒むことでした。しかし、この状況を克服するためには、最初の愛に戻らなければなりません。

第二の教会時代はスミルナの教会です。そこにはこう書いてあります。「スミルナにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『初めであり終わりである者、死んでいたが、生きている者が、次のように言われる。』」(黙示録 2:8)

スミルナとは没薬の意味で、人々に死の油を塗るための香油を作るのに使われる苦い軟膏です。ここにいる勝利者たちも、この油で油を塗られました。主はこの教会時代に、使者を通して、最初で最後、死んでいて生きている者としてご自身を現されました。これは、ここにいる勝利者たち全員が集団で殺されることを意味します。彼らは、あらゆる教会時代を通して、そのような集団の死に直面する最初の、そして最後の勝利者たちの集団となるでしょう。しかし、彼らは復活の時に再び生きるのです。彼らは9節で忠実さを称賛されていますが、10節では、死に至るまで忠実であるようにというメッセージを与えられ、励まされています。この教会時代に、自分の経験を通して殺されることを受け入れなかった者は、勝利者となる資格はありません。

第三の教会時代はペルガモです。ペルガモの教会の御使に書き送れ。「鋭い両刃の剣を持つ者が、次のように言われる。」(黙示録 2:12)

ペルガモスは結婚と昇格を象徴しており、それは、スミルナ教会に降りかかった苦難を乗り越えたこの教会時代の信者たちが、さらなる苦難から守られるよう、コンスタンティヌス帝の治世中に国家と婚姻関係を結んだときに起こりました。

勝利者たちは、霊と真理においてキリストと結婚しました。主はこの教会時代に、使者を通してご自身を「両刃の鋭い剣を持つ者」として現されました。これは、この教会時代に宣べ伝えられるメッセージが両刃の鋭い剣のように、彼らをキリストと結婚させるように築き上げるか、サタンと結婚させるように滅ぼすかのどちらかであることを意味します。彼らは13節で称賛されていますが、14-16節では、バラムの教えを持つ者たちを自分たちの中に許したことを悔い改めるように警告されています。これは霊的に言えば、偶像崇拜を信じ、この世の体制と交わることを意味します。

また、ニコライ派の教義は人々の信仰を覆し、神の言葉と信仰を妥協させるものでした。ここで勝利者たちは、妥協する兄弟たちから離れ、最後まで信仰を堅く保つことによって悔い改めるように告げられました。

4番目の教会はテアテラであり、彼らのメッセージは次の通りです。

テアテラにある教会の御使に書きおくりなさい。「燃える炎のような目と、光り輝くしんちゅうのような足とを持ち、神の子が次のように言われる。」(黙示録 2:18)

テアテラは犠牲を象徴しています。なぜなら、彼らは主に大きな犠牲を捧げると同時に、偶像に犠牲を捧げていたからです。テアテラはまた、怠惰な、あるいは

怠慢な教会は、あらゆる種類の偶像礼拝を導入した教皇教会のシステムの典型でした。主イエスは、その教会時代の使者を通して、燃える炎のような目と、磨き抜かれたしんちゅうのような足を持つ神の子としてご自身を現されました。これは、真の神の子として、使者は神の聖さを現し、燃える炎のような目であらゆる偽りを深く探り、明らかにするという意味です。また、彼の足は、忍び込もうとするあらゆる種類の罪を踏みにじりました。19節では、彼らは善行、愛、信仰、忍耐、犠牲を払うように命じられましたが、20-23節では、彼らが教会の中でイゼベルの霊が働くことを許し、それによって神の僕たちをこの世のシステムと妥協させ、偶像礼拝を信じるように教え、誘惑したとして叱責されました。

これは、教会における女性の地位に関するコリント人への第一の手紙14章33-38節とテモテへの第一の手紙2章11-14節に反して、男性がいる聖徒の教会において、教え、預言し、多くの活動を導く女性牧師を任命し始めたことから始まりました。それゆえ、主はこの使者を通して警告されました。もし彼らが、神が女性に定めていない地位を女性に与えたという悪行を悔い改めなければ、神は彼らを床に投げ込み、つまり霊的な眠りに陥らせ、この教義に従う者すべてを大患難の間に滅ぼすでしょう。

この教会時代に勝利者となるためには、イゼベルの霊の行為を止めてこの教義を悔い改めなければなりません。

女性たちに、コリント人への第一の手紙14章33～38節とテモテへの第一の手紙2章11～14節に戻って従い始めるよう勧めています。

第五の教会時代はサルデスであり、イエスはこう言われます。

サルデスにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『神の七つの霊と七つの星とを持つたが、次のように言われる。「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは生きているという名を持っているが、死んでいるのである。』(黙示録 3:1)

サルデスは残りの者、つまり緩んだ教会から出てきた者たちを表しています。主イエスは、当時の教会の使者を通して、神の七つの霊と七つの星を持つ者としてご自身を現されました。これは、使者と他の牧師たちが神の七つの霊を用いて働き、出てきた者たちが抱くあらゆる嘘を見抜くことができたことを意味します。七つの霊とは、主の霊、知恵の霊、悟りの霊、計りごと、力の霊、知識の霊、そして主を畏れる霊です(イザヤ11:2)。彼らは1節でその働きを称賛されましたが、2-3節では、テアテラで受けた嘘から、残っている嘘について悔い改めるように警告されています。また、彼らは、この使者が教えたことをしっかりと守り、不意を突かれないように真剣に主を待つようにと励まされました。それが、教会の時代に彼らが克服すべき唯一の条件です。

第六の教会時代はフィラデルフィアであり、そのメッセージは、
フィラデルフィアの教会の御使に書き送れ。聖なる者、真実な者、

彼はダビデの鍵を持っている。彼が開けば、だれも閉じることはできない。彼が閉じれば、だれも開くことはできない。（黙示録 3:7）

フィラデルフィアは兄弟愛を意味し、これは彼らが互いに愛のうちに歩んでいたことを意味します。主イエスはこの教会時代の使者を通して、聖なる者、真実な者、ダビデの鍵を持つ者、開く者を誰も閉じることができず、閉じる者を誰も開くことができない者としてご自身を現されました。これは、使者が聖さと真実のうちに歩み、ダビデが持っていたのと同じ権威を持つべきであることを意味します。彼（ダビデ）が持っていた権威は、神への愛、服従、そして従順を通して得たものであり、これによって主は彼らのために、誰も閉じることのできない神の愛、福音、そして祝福の扉を開き、悪魔が彼らに対して開いた攻撃の扉も閉じました。彼らは主から全面的な称賛を受け、いかなる過ちについても叱責されることなく、むしろ、誰にも冠を失わないように、持っているものをしっかりと保つようにと促されました。これが、彼らがこの時代に勝利者となるための条件でした。

教会が反キリストの恐ろしい統治から連れ去られる前の最後の7番目の教会はラオデキアであり、主が彼らに対して持っているメッセージは次の通りです。

ラオデキアの教会の御使いに書き送れ。「アアメンなる者、忠実で真実な証人、神の創造の初めである方が、次のように言われる。」（黙示録 3:14）

ラオデキアは生ぬるさと自己欺瞞を象徴しています。それは、この教会時代の信者たちが自分たちの利己的な権利を求め、それによって欺瞞と

神のことに熱心でなくなる。主イエスは、この教会時代の使者を通して、人として、忠実で真実な証人として、神の創造の始まりとして、ご自身を現されます。つまり、使者は神の言葉に「アーメン」（つまり、神の言葉があるがままに受け入れる）と言い、自分を召された主に忠実であり、主に対して真実の証人となる（つまり、神の言葉が自分について語っていることは何でも、それを守る）ということです。洗礼者ヨハネが主に真実の証を立てたように。恵みと真実である神の創造の始まりとして、使者は被造物におけるアダムの特徴を持つでしょう。神がアダムを創造し、彼を園（教会の象徴）に置き、妻を創造して彼のもとに連れてきて、彼を養い、交わりを持たれたのと同じように、神はまずこの使者を通して、そしてこの教会時代のすべての真の奉仕者を目指す人々を通して、アダムと共に現れます。神はこの時代の真の牧師たちのために、恵みと真理の原則に基づいて行動されます。彼らは主から何の賞賛も受けず、むしろ富を誇り、何も欠けていないと言っていることで叱責されました（15-17節）。しかし、彼らは自分が貧しく（真理の欠如）、盲目で（霊的な盲目）、裸であること（罪）を知りません。主は18-20節の使者を通して、この教会時代に警告を与えています。「この火の中を通り抜けてわたしから金を買いなさい。そうすれば富める者となる。」これは、厳しい迫害を通して得られる神の信仰を求めることを意味しています。そうすれば、神の言葉に富み、白い衣（義）を着ることができ、彼らの恥は神のものとなるのです。

裸（罪）は現れません。主はさらに、見えるようになるために目に目薬（聖霊）を塗るようにと警告されました。そして主はこの使者を通して、私たちが聞いているいわゆる繁栄のメッセージのせいでこの教会時代を捕らえているなまぬるさを悔い改めて主に熱心でなければ、外の暗闇に投げ込まれてしまうだろうと警告を締めくくられました。主は、この教会時代の信者たちが変わることを好まないことを知っているので、勝利者になりたいと望むすべての人に語りかけ、心の扉を開き、主が入り込んで自分を変えてくださるようになさいます。そしてこれに従うことで、あなたは真の弟子でなければなりません。今は個人主義の時代です。なぜなら信者たちは道を踏み外しており、残っているわずかな残りの者たちが回復するために液体の火、あるいは後の雨が降るまで、これからも道を踏み外し続けるからです。神は今、すべての人を一人ずつ召しておられます。それは、アブラハムを一人ずつ召して祝福し、ロトと別れた時に彼を増やしたようにです（創世記13:6-

(17、イザヤ51:1-2)多くの牧師は、神が良いと言われた自分たちの時代をすぐに言い、自分たちのグループや教派がその教会を代表していると言います。もしあなたが自分の教派を最高にしたいなら、主がこの第七、そして最後の教会時代に告げていること（罪深い生き方を悔い改め、個々に主のもとへ行き、主に熱心に仕えること）に従わなければ、勝利者となることはできません。主はまた、何世紀も前に預言者イザヤを通して、その書の第3章で、神の民が…

子供たちに抑圧され、女性たちが彼らを支配している。どのグループや宗派がこの大きな誤りから逃れただろうか？エフェソからラオデキアまでの七つの教会時代すべてが、この終わりの時代に何らかの形でいくつかの宗教グループによって現れているため、主はイザヤを通してすべての教会について語られた。

そしてその日（これが言及されている日々です）、7人の女（黙示録第2章と第3章で言及されている、この恵みの時代における7つの教会）が1人の男（イエス）に捕らわれて言うでしょう。私たちは自分のパンを食べ（自分の教義を信じ）、自分の服を着ます（死んだ行いである自分の義に従って歩みます）。ただ、あなたの名によって呼ばれるようにしてください（ただ、イエスの名を用いさせてください）。そうすれば、私たちのそしりは取り去られます。（イザヤ4:1）

これが今日の信者たちの現状です。なぜなら、神が定めていない役職に女性が就くことを、どの団体も教会も認めていないからです。神が勝利者を求めておられることを証明するためです。

勝利を得る者はすべてのものを相続するであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となるであろう。（黙示録 21:7）
勝利者は神の前で王や祭司として王座に座り、第二の死によって害されることはありません。

克服者になる方法

王座に就く資格を得るには、勝利者でなければならないことが証明されています。信者のかなりの割合がこれを知っており、実際、各教派では信者にそれを奨励する多くのプログラムを設けています。

一般大衆がそこに参加するように、それが勝利者になる道だからである。これはとても可笑しいことである。なぜなら、主は人が神の王国、ひいては王座への近道を望んでいることを知っていたからである。そしてこの理由から、主は山上での説教を終える際に警告した。「狭い（厳格、正確）門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広い（繁栄、富）から入って行くからである。そこから入って行く者が多いからである。命に至る門は狭く（厳格、正確）、その道は狭い（苦難、苦しみ、苦悩）。そして、それを見出す者は少ないからである。」

(マタイ7:13-14)

私がこの箇所に下線を引いたのは、そもそもプログラムではなく聖霊を通してでなければ、その狭い門と狭い道を見つけることは容易ではないということを示すためです。

第二に、真の弟子として主に個人的な生活を導いていただくことを信じる人のうち、それを見いだせるのはごくわずかです。

主はまた詩篇の中でダビデ王にこう啓示されました。

主の秘密は主を畏れる者たちと共にあり、主はその契約を彼らに示される。（詩篇 25:14）

聖書に記されているように、真の弟子となるために主の戒めに従い、心から主を畏れていると信じている人々にとって、勝利者となるために何をすべきかという奥義がここにあります。勝利者となるためには、あなたの中にある種がサタンの頭を砕かなければなりません。

そして、私はあなた（蛇または悪魔）と女（教会）との間、またあなたの子孫（反キリスト）と彼女の子孫（イエス・キリストと後に男の子または

神はまた、女に言われた。「わたしはあなたの苦しみとあなたの妊娠を大いに増やす。あなたは苦しみながら子を産む。あなたは夫を慕い、夫はあなたを支配するであろう。」（創世記3:15-16）

主なる神は御座に座り、悪魔がこの世の支配権を奪い、人間の手に委ねるのを見守っておられました。神はすぐに降り立ち、それがどのようにして起こったのかを注意深く調べられた後、サタンを呪い、さらに呪いの言葉を口にされました。これは後に、敵を打ち負かす唯一の方法として、女にとって偽装された祝福となることが判明しました。主なる神は、女と悪魔、そして女の子孫と悪魔の子孫との間に、真剣な戦いを宣言されました。では、女とその子孫とは一体誰なのでしょう？肉体における女とは、男の女性の部分であり、より弱い器とみなされ、神から子供を産むという使命を与えられています。そして霊において、女はキリストの体のより弱い部分であり、教会とみなされ、サタンの頭を砕く霊的な子孫（男の子）を生み出すという使命を与えられています。マリアは、悪魔を打ち負かした最初の子孫を産んだ肉体における最初の女性であり、その子孫は主イエスです。そして、霊において、サタンの頭を砕き、サタンに打ち勝つ女（教会）の最初の子孫は、男の子（勝利者）です。黙示録12章1-6節では、このことがよく説明されています。女は男の子を産み、その男の子は鉄の杖ですべての国々を支配することになり、その子は天に引き上げられました。

神のもとへ、そして御座へ。しかし、女自身は男の子のように神のもとへ引き上げられることはなく、むしろ荒野（一種の分離）へと逃げ込み、反キリストの支配から身を隠しました。繰り返しますが、キリストの体の真の成員は皆、霊的には女です。なぜなら、私たちは神の花嫁であり、サタンの頭を砕く彼らの子孫は、彼らの内にある神の言葉だからです。しかし、どんな弟子の子孫（神の言葉）もサタンの頭を克服し、砕くための三つの条件は、創世記3章16節に記されています。

(a) 女は悲しみのうちに子供を産みます。霊的にそれは、キリストの体の真の成員は誰でも、神の国の子供を産むために、うめき、産みの苦しみ、泣き、ほえ、泣き叫び、わめき声を上げることを意味します（ガラテヤ4:19、イザヤ66:7-8、黙示録12:1-2参照）。

(b) 女の望みは夫に向けられなければならない。霊的に言えば、これはすべての弟子の望みが主イエスに向けられることを意味します。これは、弟子がこの世で義にかなった人生を送るためには、主イエスに完全に頼らなければならないことを示しています。そして、まさにこの「義人は信仰によって生きる」という言葉が由来しています。地上における弟子の人生に関するすべてのことは、主イエスの復活に対する信仰に基づいていなければなりません（ハバクク 2:4、ガラテヤ 3:11、ヘブル人への手紙 10:38参照）。

(c) 主はあなたを支配するでしょう。霊的にそれは、あなたが彼の権威の経路を通して主にあなたの意志を明け渡すとき、主イエスがあなたを完全に支配することを意味します。（私の著書『服従、神の権威の経路、そして神の王国への唯一の道』を参照）

主は、弟子としてのこれらの条件を満たし、克服しようと努力している有能な牧師を数人立てられました。そして、真の弟子となり、最終的に克服することを望む民を、そのような牧師のもとに置いておられます。また、牧師を通してこれらの弟子たちに、神に服従し、従うようにと促しておられます（参照：ヘブライ 13:7、17、ヤコブ4:7、ペトロ第一5:5-6）。

これらを詳しく説明しましたが、次の点に留意することが重要です。うめき、苦しみ、涙などを通して悲しみのうちに霊的な子らを育てている弟子、主イエスを待ち望み（義人は信仰によって生きる）、夫である主イエスに自分を治めていただく（主イエスの権威を通して完全に服従する）弟子は、自分の子孫（自分の内にある神の言葉）がサタンの頭を砕き、最終的に敵に打ち勝つでしょう。また、来たるべき王国でキリストと共に統治する資格も得られます。神は、打ち勝つためにこれら3つのことのうち1つか2つを行えばよいと言われたのではなく、あなたの子孫（自分の内にある神の言葉）が敵に打ち勝つ唯一の方法としてこの3つの条件を与えられたのです。そして、神の教え方における3番目は復活です。そして、すべての打ち勝つ者は最初の復活をしなければなりません。多くの人々は悲しみの中で産み出し、主に支配されること（神の権威への服従）を望みますが、義人は信仰によって生きるという教えを聞き、信じようとしません。彼らは神の御心に従うことを待ち望むことができません。

主が彼らの必要を御自身の時に満たして下さるのではなく、彼らは馬（人間の力）に乗って自力で生き延びることができるのです。もしあなたがこれらの三つの過程を経たくないなら、克服など忘れてください。

第9章

真の弟子としての報酬

キリスト教徒としての競争の終わり

真の弟子は、父、母、兄弟、姉妹、子供、妻を捨て、さらには自らの命さえも憎む勇気を出して、この大きな危険を冒すほどの勇気を持つために、何を成すのでしょうか？パウロはその答えを持っており、ヘブライ人への手紙の中でこう述べています。

わたしたちの信仰の創始者であり完成者であるイエスを見つめなさい。イエスは、御自分の前に置かれた喜びのゆえに、恥辱をもいとわず十字架の死を耐え忍び、神の御座の右に着座されました。（ヘブライ 12:2）

もし主イエスの前に喜びや報いが与えられていなかったなら、そしてそれが主イエスがそのような苦難を耐え忍ぶことを可能にしていたなら、そもそも主イエスが来られることに同意されなかったでしょう。この大胆な一歩を踏み出す前に、あなたは何が得られるのかを知らなければなりません。ダビデはそれを知っていました。そして、ゴリアテと戦って殺すという人生最大の危険を冒す前に、彼は何が得られるのかを知りたがったのです。

彼は報酬として受け取ることになる。

ダビデはそばに立っている人々に言った。「このペリシテ人を殺してイスラエルの恥辱を取り去る者には、どうすればよいのか。このペリシテ人はだれか。」

割礼を受けていないペリシテ人が、生ける神の軍隊に逆らうとはどういうことか。

(サムエル記上17:26)

これはダビデの賢明な問いかけです。彼はこれから直面するであろうことを知っていたので、報酬として何を受け取るのかを知らされる必要があったのです。パウロは、結婚を放棄し、すべてのものを捨て去るという自分の理由が無駄ではなかったことをコリント人に証明しなければなりません。「自分の費用で戦争に行く人がいるだろうか。ぶどう園を作っていて、その実を食べない人がいるだろうか。羊の群れを飼っていて、その乳を食べない人がいるだろうか。私は人間としてこれらのことを言うのだろうか。それとも、律法も同じように言うのではないか。」(コリント人への第一の手紙 9:7-8)

彼は声明の結論として、今言ったことは主から出たものであり、彼や他の人間から出たものではないと述べた。

真の弟子がキリスト教徒としての道を歩み終えた時に得る最初の報酬は、肉体の死から復活し永遠の命を得ることです。

そしてこのことに関して、主ははっきりとこう言われました。

わたしをつかわした方の意志は、子を見て信じる者が皆、永遠の命を得ることである。わたしはその人を終りの日に復活させる。

(ヨハネ6:40)

父なる神はイエスをこの地上に遣わしたのは無駄ではなく、むしろ、この世で自分の命を捨ててイエスに従うことに同意する者を誰でも立ち上がらせる力を与えたのです。そのため、主イエスは弟子たちにこう答えたのです。

自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、永遠の命に至るまでそれを保つてであろう。(ヨハネ12:25)

この世での自分の人生を憎まなければ、永遠の命を得ることはできません。人は永遠の霊を持って生まれたので、永遠の命とは何かを理解することは良いことです。しかし、重要なのは、人がこの朽ちる肉体を捨てた後、その霊は永遠にどこに留まるのかということです。神とその聖なる天使たちの前でしょうか、それとも燃える火と硫黄の池の中で、悪魔とその悪霊たちと共に留まるのでしょうか。永遠の命を得るとは、永遠に神と共に人生を過ごし、天の至福を享受することを意味します。そして、息子として、父なる神と交わり、それによって天と地の両方で神が持つすべてのものにアクセスし、神のような創造主の力を得て、神と共に支配する際にその力を行使することを意味します。一方、永遠の死は、神から永遠に分離され、天の至福と神との完全な交わりをすべて失い、燃える火と硫黄の池の中で神の敵（サタンとそのすべての手先）と共に永遠に生きることを意味します。

真の弟子がキリスト教徒としての道を歩み終えるときに得る二番目の報酬は、栄光を受け、妻として夫（キイエス）との偉大な結婚の結びつきに踏み出すことです。

喜び祝って、主に栄光を帰しましょう。小羊の婚礼の時が来たからです。妻は準備を整えました。そして、彼女は白い麻布を着ることを許されました。その麻布は聖徒たちの義を表すからです。
(黙示録 19:7-8)

これは地上の夫婦にとって最も素晴らしい瞬間であり、結婚の絆で結ばれ、人生を始める時です。

一つに結ばれる。同様に、真の弟子にとって最も幸福な瞬間は、最も栄光に満ちた方法で歩み出し、花婿との結婚の絆を結ぶ時です。結婚式には双方の両親、親族、友人が参列します。そして後に花嫁は、花婿が彼らのために用意した偉大な都、すなわち新エルサレム、四角い都で永遠の命を得ます。

父よ、あなたが私に与えてくださった人々が、私のいる所に私と一緒にいるようにしてください。それは、あなたが私に与えてくださった私の栄光を彼らが見るためです。あなたは、世界の基が置かれる前から私を愛しておられます。（ヨハネ17:24）

そしてわたしは見てみると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。小羊と共に十四万四千人もおり、彼らの額には小羊の父の名（神の言葉）が刻まれていた。（黙示録 14:1）

主は父なる神に、花嫁がどこにいても主と共に生き、主の栄光を見ることができるようにと、具体的に祈られました。そして花嫁は花婿の栄光を見ると同時に、その栄光の実りを享受するのです。

真の弟子がキリスト教徒としての道を歩み終えるときに得る3番目の報酬は、干とされ、来るべき王国において、救われた人々の国や都市を統治することです。

そして、勝利を得て、最後まで私のわざを守る者には、私は諸国民を支配する権威を与える。彼は鉄の杖（聖霊の抵抗できない力）で彼らを治める。陶器師の器が打ち碎かれるように。

わたしが父から受けたように、震えなさい。そして、わたしは彼に明けの明星を与える。（黙示録 2:26-28）

最後まで耐え忍ぶ弟子には、統治権の権威が与えられ、聖霊の強い力によって、自分に割り当てられた国や都市を統治することになります。

しかし、その人に割り当てられる国や都市は、この世にいる間に主がその人に対して与えてくださったものに対するその人の忠実さによって決まります。

そこで彼は言いました、「ある貴族が王国を得るために遠い国へ出かけて行って、そして帰ってきた。」

そこで彼は十人の僕を呼び、十ミナを渡して、「私が帰るまで働きなさい」と言った。しかし、町の人々は彼を憎み、使者を遣わして、「こんな男に王位を継がせるのはごめんだ」と言わせた。さて、彼が王国を受け取って帰って来ると、金を与えた僕たちを呼ぶように命じ、各人が商売でどれだけ儲けたかを調べさせた。最初の者が来て、「ご主人様、あなたのミナで十ミナが増えました」と言った。すると彼は言った、「よくやった、良い僕だ。あなたはわずかなことに忠実であったから、十の町を治めるように」。次の者が来て、「ご主人様、あなたのミナで五ミナが増えました」と言った。すると彼は同じように、「あなたも五つの町を治めなさい」と言った。（ルカ19:12-

19)。

このたとえ話は、弟子一人当たりになんだけの国や都市が割り当てられるかという疑問に明確に答えています。

そして、弟子は、

主によって彼に託された奉仕の務め。真の羊を神の国に導き入れるほど忠実でなかった僕には、本来得べきものが取り上げられ、十の町を持つ者に与えられ、さらに多くの町を持つようにされた。

そこで彼は、そばに立っている者たちに言った。「そのミナを彼から取り上げて、十ミナを持っている者に与えよ。」（24節）

真の弟子がキリスト教の道を歩み終えた時に得る4番目の報酬は、神の大祭司となり、統治している国を神の前に代表することです。

勝利を得る者を、わたしはわたしの神の神殿の柱とする。彼は二度と外に出ることはない。わたしは彼の上に、わたしの神の名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとから天から下って来る新しいエルサレムの名とを書き記す。また、わたしは彼の上に、わたしの新しい名を書き記す。（黙示録 3:12）

神殿の柱は大祭司とされた者であり、主は「彼は二度と外に出ることはない」と言われました。これは、主イエスが天の至聖所に入り、御自身の血によって私たちのために最終的な贖罪を成し遂げられた後、父なる神の御前に永遠の大祭司となられたのと同じように、永遠の大祭司となることを意味します。だからこそ私たちはメルキゼデクの位に倣った祭司と呼ばれるのです（ヘブライ人への手紙7章26節）。

そして、エルサレムに攻めてきたすべての国々の残りの者は皆、万軍の主なる王を礼拝するために年ごとに上って来るであろう。

仮庵の祭りを守るように。地のすべての民族のうち、万軍の主なる王を礼拝するためにエルサレムに上って来ない者には、雨は降らない。もしエジプトの民族が上って来ず、雨も降らないなら、主は仮庵の祭りを守るために上って来ない異邦人を罰する災いが来る。これはエジプトへの罰であり、仮庵の祭りを守るために上って来ないすべての国々への罰である。（ゼカリヤ書 14:16-19）

真の弟子は王として臣民を集めてエルサレムへ導き、大祭司として千年王国に毎年建てられる祝宴の幕屋で王の王を礼拝するよう臣民を導きます。

真の弟子がキリスト教徒としての人生の終わりに得る五つ目の報いは、主から住まいを与えられることです。その広さは、地上で主のために勝ち取った真の羊の数に応じて決まります。この住まいで、彼は天国へ行けた改宗者たちをもてなすのです。

わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。そうでなかったら、わたしはそのことをあなたたちに話していたでしょう。（ヨハネ14:2）

これは、最後まで忠実である者たちのために主が用意するために建てられた住まいであり、主は今もなおさらに多くの住まいを建て続けておられます。

真の弟子がキリスト教徒としての道を歩み終えるときに得る6番目の報酬は、第二の死によって傷つけられないということです。

第一の復活にあずかる者は祝福され、聖なる者である。このような者には第二の死は力を持たず、彼らは神とキリストの祭司となり、キリストと共に千年の間支配するであろう。（黙示録 20:6）

大艱難とそれに続く神の怒りの間に死なない多くの人々、そして神と和解することなく死んだすべての不信者たちは、やはり第二の死に直面するでしょう。

真の弟子がキリスト教徒としての道を歩み終えた時に得る7番目の報酬は、王座に座って裁判官の役割を果たして、墮落した天使たちさえも裁くことです。

聖徒たちが世を裁くことを、知らないのですか。もし世があなたたちによって裁かれるのなら、あなたたちはごく小さなことさえ裁く資格がないのですか。私たちが天使たちを裁くことを、知らないのですか。ましてやこの世のことは、なおさらです。（コリント人への第一の手紙 6:2-3）

聖徒たちは、偉大なる白い玉座の裁きにおいて、玉座に座り、不信者と墮天使の両方を裁きます。墮天使とは、最初の地位を捨て、この地上に降り立ち、人間の娘たちと結婚し、生殖のために地上に巨人を産み出した者たちです。

それゆえ、神は彼らを永遠の罰のために留め置き、罪深い者たちと共に聖徒たちによって裁かれるであろう。今、彼らはタルタロスに鎖で繋がれて留め置かれている。それは、キリストを受け入れずに死んだ罪人たちが地獄で最後の審判を待ち、燃える火と硫黄の池に投げ込まれるのを待っているのと同様である。

真の弟子がキリスト教徒としての競争の終わりに報酬として受け取る 5 つの冠。

オリンピックで多くの競技に出場したアスリートが、勝利したすべての競技で多くの金メダルを獲得するのと同じように、真の弟子はキリスト教徒としての道のりの終わりに、5つの黄金の冠という報いを受けるのです。そして、その冠とは…

(a) 不滅、または勝利者、または
オーバーカマーズクラウン。

競争を走る者は皆走るが、一人だけ走ることを知らないのか賞を受けるでしょうか？ だから、得るために走りなさい。そして、勝利を得ようとする者は皆、すべてのことにおいて自制しなさい。彼らは朽ちる冠を得るためにそうしますが、私たちは朽ちない冠を得るためにそうするのです。（コリント人への第一の手紙 9:24-25）

これは、困難を乗り越える者のための冠である。

この世の体制における敵です。それは不朽の冠と呼ばれています。なぜなら、黙示録14章4-5節に見られるように、勝利者たちはこの世の体制に全く汚れていなかったからです。

(b) 生命の冠、殉教者の冠、または
不滅の王冠。

誘惑に耐える人は幸いである。

彼は試練に遭えば、主を愛する者に約束された命の冠を受けるであろう。（ヤコブ1:12）

死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、命の冠を与えよう。（黙示録 2:10）

それは、キリストのために、あるいは福音のために苦しみがら
亡くなった人々に与えられる冠です。また、終わりまで苦しみに
耐え、主の軍勢に注がれる聖霊の大いなる注ぎ（聖霊の内住）を
受けることによって不死とされる人々にも与えられます。こうし
て彼らは変えられ、復活の体をもって地上を歩むのです。（コリ
ント人への第一の手紙 15:51-54、ヨエル書 2:1-11）

(c) 栄光の冠、長老の冠、または大祭司の冠。

そして大牧者が現れるとき、あなたたちは
しぼむことのない栄光の冠を受けなさい。（ペトロの手紙一
5:4）

これは、大祭司の職の条件を満たした霊的な長老たちに与えら
れる冠です（ヘブライ7:3,26）。

御座の周囲には二十四の座があり、私はその座に二十四人の長老た
ちが白い衣をまとい、頭に金の冠をかぶって座っているのを見た。

（黙示録 4:4）これは何百年もの間隠されてきた大いなる神秘であり、
世界中の多くの人々がこれについて真剣に議論することを私は知って
います。この二十四人の長老とは、黙示録に記されている十四万四千
人の勝利者（大祭司）のことです。

14:1。旧約聖書の中で神の御座を見る特権を得た人々の幻を注意深く
研究する聖書研究者は、24人の長老について何も言及していないこと
に気づくでしょう。モーセは

神に近づき、神の御座を洞察し、天の御座に倣って幕屋を建てるよう命じられたにもかかわらず、彼らは彼らを見ることも、彼らについて言及することはありませんでした。ダビデ（使徒行伝 2:25:35）も24人の長老について言及していません。彼らについて言及したのは使徒ヨハネだけです。そして、黙示録は教会に向けて、間もなく起こるべきこととして書かれたことに注目すべきです（黙示録 1:1-2）。

24という数字は、そこに24人しかいないという意味ではなく、歴代誌上24章1-19節に記されています。その章では、ナダブとアビフの死後、残されたアロンの息子たち、エレアザルとイタマルに祭司の職が分けられました。ダビデ王は、エレアザルの子ザドクとイタマルの子アヒメレクに祭司職を分け与えました。そのため、エレアザルからは16人の祭司が、イタマルからは8人の祭司が生まれました。ザドクの子たちは、シオンにあるダビデの幕屋で、それぞれの階級に従って奉仕していました。一方、アヒメレクの子たちは、ギベオンにある会見の幕屋で奉仕していました。しかし、ソロモンが神殿の建設を終えると、ダビデの幕屋とギベオンの会衆の幕屋を一つにまとめ、両方の場所から集まった二十四人の祭司たちが、それぞれの職分に従って奉仕し始めました。今や、二十四という数字は歴代誌と神の算術に記されている祭司職の数であることが証明されています。「長老」という言葉は

彼らがこの職務において、歴代誌第一に記されている者よりも年上であることを意味します。また、百人隊長は

黙示録7章3-8節に記されている4万4000人の勝利者は、地上のイスラエル民族の祭司たちであり、ダビデがイスラエルの王となるように、地上に再建されたエルサレムの神の幕屋で奉仕する者たちです。一方、黙示録14章1-5節に記されているのは、地上のすべての国々から来た大祭司たちであり、24人の長老として言及され、天の神の御座の周りに座っています。

そして彼は来て、玉座に座っておられる方の右の手から巻物を受け取った。彼がその巻物を受け取ると、四つの生き物と二十四人の長老たちは、それぞれ豎琴と、聖徒たちの祈りである金の香油の壺を持って、小羊の前にひれ伏した。そして彼らは新しい歌を歌って言った。「あなたは、この巻物を取り、その封印を解く資格をお持ちです。あなたは屠られ、あらゆる部族、言葉、民族、国民の中から、あなたの血によって私たちが神のもとに贖い出し、私たちが私たちの神のために王とし、祭司としてくださいました。私たちは地上で支配するのです。」（黙示録 5:7-10）

四つの獣は主の来臨以前から御座の前に留まっており、贖われる必要がないことを思い出してください。少なくともエゼキエルは、その書の第1章と第10章で二度、それらを見ている。ここで言及されている血による贖いとは、二十四人の長老を指し、あらゆる親族、言語、民族、国民から選ばれます。しかし、贖いはまだ起こっていません。教会が神の御座に引き上げられた時に、この二十四人の長老（大祭司）が任命されるでしょう。この条件を満たす真の弟子は、

聖職に就き、最後まで耐え抜く女性たちもその一人であり、これには真の弟子である女性たちも含まれます。

(d) 正義の冠、あるいは彼の出現を愛する人々の冠。

私は戦いを立派に戦い抜き、走るべき道を走り終え、信仰を守り抜きました。今や、義の冠が私のために用意されています。義なる裁き主である主が、かの日にそれを私に与えてくださいます。私だけでなく、主の再臨を待ち望むすべての人にも与えてくださいます。（テモテへの手紙二 4:7-8）

この冠が何を意味するのかを理解するには、義の意味を知ることが重要です。義とは、罪悪感や劣等感を抱かずに神の前に立つことができる能力です。神の御言葉に従っている場合にのみ、神の前に立つことができ、神が来られる時に神にお会いすることを心から願うでしょう。だからこそ、パウロは主が彼の手に乗せられたことを完璧に遂行した時にのみ、こう言うことができたのです。

(e) 喜びの冠、あるいは魂の勝利者

クラウン

わたしたちの希望、喜び、あるいは栄誉の冠とは何でしょうか。主イエス・キリストが来られるとき、あなたがたも御前にいるのではないのでしょうか。あなたがたはわたしたちの栄光であり、喜びなのです。（テサロニケ第一 2: 19-20）

これは、真の弟子が主のために勝ち取った魂のゆえに与えられる冠です。主のために勝ち取った魂とは、単に新しく生まれ変わったものの、最後まで到達できなかった魂のことではありません。むしろ、主が最後まで導き、神の国に到達できるまで導くことができる魂のことです。

最後に、正しい考えを持つ人なら、誰もが望まなければ、得られるであろうこれらの素晴らしい報酬をすべて見ることはないでしょう。もしあなたがそれらを望みながらも、真の弟子として認められたくないのであれば、私は主の教えに従い、「人は、この世のシステムにあるもの（この世のもの）を手に入れても、自分の魂（永遠のものとなるこれらの報酬すべて）を失ったら、何の益があるでしょうか」と問いかけます。パウロ兄弟が、キリストを得て、キリストにあって見出されるために、すべてを糞とみなしたのも不思議ではありません。さらにパウロは、後ろにあるものはすべて忘れ、キリスト・イエスにおける神の高き召しによる賞を得るために、目標に向かってひたすら突き進んでいると述べています。ですから、私はこの本の読者に強く勧めます。あの偉大な異邦人使徒に倣い、キリストを得て、キリストにあって見出されるために、この世に属するものはすべて糞とみなし、最終的にこれらの偉大な報酬を得るように。主が私たち全員を祝福し、イエスの御名において私たちとともにいてくださいますように。アーメン。

ジョン・ダニエルの他の本

(1) 提出 (当局のチャンネル)

神と唯一の道

神の王国

(2) 幕屋は影として

キリスト

(3) 終末時代の霊的な祈り方

(契約の祈りは

即時結果

この本は

販売

著者について

著者は、主イエス・キリストの真の弟子として生きるよう召命を受け、1989年に陣営（世界的宗教組織）から離れ、仕事、親族、友人たちから離れました。

そして主は彼を権威（服従）の経路の下に置き、ナイジェリアのエヌグにあるアクプオガ - エメネの荒野型農場集落へと導きました。

主が彼の中で純粋な神の言葉をすりつぶすにつれ、彼はキリストのために多くの苦難、飢餓、苦悩、窮乏、苦悩、鞭打ち、投獄、徹夜、断食、危険などを通して彼の肉体を火で焼くことによって、厳しい訓練を受けさせられました。

彼は1992年に訓練を終え、教会の体に終末の真理を伝える権威を与えられた人として

キリストは、あなたの宗派に関わらず、聖霊に用いられ、御言葉を求める聖なる人々の心にこの真理を伝えるために、今もなお苦しみを受けています。主の導きに従って、教会、家庭、奉仕団体、個人など、様々な場所に赴き、この真理を説いておられます。

彼は主の大切な贈り物であるメアリー・ブレッシングと幸せな結婚生活を送っています。メアリーは彼が主から受けている大きな恵みの源であり、この結婚生活を通してティモシー・ジョン（ジュニア）、ベンジャミン・サミュエル、そしてデイビッド・ジョセフという3人の息子に恵まれています。